

大間町年表

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
縄文章創期	前二万二〇〇〇	<p>蟹田町大平山元(1)、八戸市長者久保 六ヶ所村表館(1)、発茶沢(1) 八戸市鴨平(2) 無文土器 隆線文土器 爪形文土器</p>	<p>縄文海進が始まり、朝鮮海峡・津軽海峡 ができる</p>
縄文早期	前七〇〇〇	<p>むつ市最花南から下北最古の縄文土器、東通村物見台・ 貝類の採集生活が始まる 下田屋納屋・吹切沢・ムシリ、大間町白砂・小奥戸(1) (2)、八戸市鯨町白浜より尖底土器、南郷村狐森より板 状土偶出土</p>	
縄文前期	前四〇〇〇	<p>むつ市金谷貝塚(下北最古の貝塚)・万人堂・女館、 大畑町ノツコロ・湧館・水木沢、川内町戸沢、佐井村 八幡堂・原田、風間浦村古野・桑畑、大間町冷水・大 間平(2)・小奥戸(1)、中里町深郷田、森田村床舞石神、 天間林村二ツ森より円筒下層式土器出土。青森市内三</p>	
	五万、 二万年前	<p>尻屋一帯でナウマン象・オオツノシカの化石発見 このころ下北・津軽両半島は陸続きだった 東通村物見台で下北最古のナイフ型石器発見 佐井村長後沖で有舌尖頭器発見</p>	

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
縄文中期	前三〇〇〇	丸山より漆塗製品など出土 三内丸山より最大級の板状土偶および縄文集落跡発見 むつ市最花・第一田名部小校庭、風間浦村潜石・古釜 谷・折戸坂、佐井村八幡堂、大畑町湧館、脇野沢村家ノ上・外崎沢より円筒上層式土器出土 東通村札地、むつ市酪農五号ストーンサークル むつ市荒川・奥内・八森・大湊近川、佐井村糠森・原田・浅水、大間町材木・焼畑・小川代・小奥戸(1)(3)・冷水・ドーマンチャ	縄文海退始まる 秋田大湯のストーンサークル
縄文後期	前二〇〇〇	大間町ドーマンチャ・冷水・大間・奥戸上道・白砂・小奥戸(3)・二ツ石(4)、むつ市八森・奥内・江豚沢、川内町不備無・葛沢、大畑町湧館、風間浦村易国間、木造町亀ヶ岡、八戸市是川、名川町剣吉・荒野	大洞式土器 亀ヶ岡土器文化、遮光器土偶
縄文晩期	前一〇〇〇	大間町二ツ石(1)・船橋・黒岩	
弥生前期	前三〇〇	弘前市砂沢遺跡から水田が発見された。むつ市大川目・梨木平、東通村前坂下、川内町戸沢川代	
弥生中期	前一〇〇	大間貝塚で鉄片出土。大畑町二枚橋、佐井村八幡堂、脇野沢村瀬野と川内町宿野部操木平で靱圧痕土器出土 三厩村宇鉄と田舎館村垂柳より水田跡発見	

鎌倉時代 (室町時代) 中世	弥生後期	○	東通村念仏間・婁部前山、むつ市大曲海岸、脇野沢村 九艘泊岩蔭、大間町烏間・冷水、平賀町烏海山	三〇〇	江別式土器文化の南下
	古墳前期		大間烏間、むつ市大曲海岸・関根、脇野沢村九艘泊、 東通村赤平・桑畑山・浜尻屋・大平口、江別式土器		北大式土器文化の南下
	古墳後期		大間貝塚・小奥戸(1)、東通村浜尻屋、北大式土器出土。 八戸市鹿島沢古墳、下田町阿光坊古墳		六四五 大化の改新
	奈良時代		尾上町原古墳、八戸市丹後平古墳		七一〇 平城京遷都
	平安時代		脇野沢村瀬野、東通村大平、大間町小奥戸(1)・烏間 下北半島の桜井第一式土師器は東通村白糠赤平・川内 町上野下が知られているが、大部分は桜井第二式土師 器		七九四 平安遷都
		一〇世紀	むつ市最花南、東通村稲崎		
		一一世紀	川内町宿野部上野平から製塩土器出土		
			大間町割石、東通村将木館などから擦文土器 大間町小奥戸(1)(2)・二ツ石(2)(4)・奥戸田頭の各遺跡も このころのもの		
			東通村目名高館・鹿橋山館・下田屋将木館など古代の 築城		
			蛎崎館、田名部館、四十八館、奥戸館ほか		
					一二九二 鎌倉幕府の成立
					一三三六 室町幕府の成立

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
弥生時代	一八九 三五〇		卑弥呼、邪馬台国女王となる
古墳時代	四二八 五三八		大和朝廷が日本全土を支配 仁徳天皇陵築造
(推古二二)	六〇四		百濟から仏教伝来する
(一五)	六〇七		聖徳太子、一七条憲法を作る
大化元	六四五	国郡制がしかれ、福島以北を陸奥の国とする	聖徳太子、法隆寺創建
齊明四	六四六 六五八	阿倍比羅夫が日本海を北進して蝦夷を征伐し、二年後北海道で肅慎を討つ	大化の改新
和銅元	七〇八	9・23 陸奥の国が出羽と陸奥に二分する	初めて鑄銭を行う(和銅開珎)
養老四	七二二	9・29 多治比呂守を持節征夷將軍として反乱する蝦夷を討つ	大安万侶「古事記」を撰上
天平勝宝四	七二二	出羽・陸奥に蝦夷の南進を防ぐための柵を設ける	舎人親王・大安万侶等が「日本書記」を撰上
延暦一三	七五二	陸奥の国多賀以北の調庸を黄金とする	東大寺大仏開眼供養
一七	七九四		平安京に遷都
二〇	七九七 八〇一	坂上田村麻呂、東夷を征して長駆半島(下北)に入り	坂上田村麻呂、征夷大將軍となる

弘仁 二	八一	夷民を征服する 文屋綿麻呂、征夷大將軍として蝦夷を平定 脇野沢で夷首サイユウが將軍の危機を救い、安達小佐丸と名乗って北部の長となる 田名部村山頂に宇曾利山神社を勧請 慈覚円仁大師、恐山を開山	
仁寿 四	八五四		
貞観 四	八六二		
永承 六	一〇五一		
天喜 五	一〇五七		前九年の役
康平 五	一〇六二		源頼義、安倍頼時・貞任を討つ
永保 元	一〇八一		源義家、陸奥守となり後三年の役を鎮定
養和 元	一一八一		藤原秀郷、陸奥守となる
文治 元	一一八五		平氏滅亡
	一一八九	半島の支配者安達小佐丸一族、一八世五郎行清の家臣に襲われ、鶴ヶ城（城ヶ沢）を追われて行方不明となる	源頼朝、藤原泰衡を亡し奥州平定、葛西清重を奥州総奉行に任命
建久 二	一一九一	南部光行、藤原泰衡征伐の戦功により陸奥国糠部五郷を賜る	
三	一一九二	南部光行、郎党七三人と八戸浦より入国。南部九牧が開かれる 南部光行、三戸城を築いて根拠とし、陸奥五郡は南部	源頼朝、征夷大將軍となる

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
承久元	一二一九	氏の領土として統治 泉親衡というもの、安東一族と称し名を安東国親と改め北部を横領する	源実朝、公暁に暗殺され源氏滅びる
貞応二	一二二三	廻船式目が制定され、奥州津軽十三湊が全国の三津七湊の一に数えられる	
建長元	一二四九	安東国親の子盛親、北部本城鶴ヶ崎順法寺城を城ヶ沢に築く。以後、安東氏の下北半島の統治は一〇〇年に及ぶという	
文永一一	一二七四		元寇（文永の役）
弘安四	一二八一		元寇（弘安の役）
正和年間	一三二二 一三二一 一三二〇 一三一九 一三一八 一三一七 一三一六	このころ安東氏、十三新城を築く	
正中二	一三二五	安東宗季が糠部宇曾利郷、中郷、中浜、御牧、湊以下の地頭職を高季に譲る。ただし、宇曾利郷のうち田屋、田名部、安渡の浦を女子・虎御前に譲る（新渡戸文書）	
元弘三	一三三三	北畠顕家、陸奥守となる	鎌倉幕府滅ぶ
建武元	一三三四	北畠顕家、南部師行を北一八郡の国代とする。顕家、韃靼国（満洲）と貿易開始。新井常長が五世安東元親	建武の中興

大間町年表

延元 三	一三三八	を殺害して北部を横領。四世師行は常長を滅ぼし、武田修理を蠣崎に、赤星五郎を田名部の目代とする	足利尊氏、征夷大將軍となり、京都に幕府を開く
興國 元	一三四〇	南部師行、北畠顯家ともに泉州石津（大阪府）で足利尊氏に敗れ戦死。弟の政長が南部家を継ぐ	
六	一三四五	日本海側に大津波、十三湖埋没	
正平 二	一三四七	南部六世信政、護良親王の遺児良尹王に下北の地を割き、順法寺城を築く	
三	一三四八	信政、後村上天皇の御旨を賜り、八幡丸（良尹王）を北部王に奉載する	
七	一三五二	北部家初代良尹王、順法寺城（城ヶ沢）を修築し入城	
一二	一三五七	北畠顯家の子守親、陸奥守となる	
一二	一三六七	良尹王、順法寺城内に大塔山阿呼寺を建立	
二四	一三六八	良尹王の弟宗尹王（二歳）を託された	
二	一三六九	新田義宗、越後より海上を敗走し下北半島の福浦（佐井）に漂着	
二	一三七一	義宗戦死し、宗尹王、順法寺城に入城	
二	一三七三	良尹王薨去し、その子尹義が二代目王家を継ぐ	
四	一三九七	尹義、親王山常念寺（大湊）を建立	
		尹義薨去し、宗尹改め義祥が三代目を継ぐ	足利義満、金閣寺を建立

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
応永二五 文安五 宝徳三 享徳三 康正二 三 長祿二 応仁元 文明一五 一八 大永二	一四一八 一四四八 一四五二 一四五五 一四五七 一四五七 一四五八 一四六七 一四八三 一四八六 一五二二	大間町および下北・青森地方の史実 尹義の子で四代目義邦死し、実子義純が五代目を継ぐ 義純、目代蠣崎藏人信純に謀殺され、義祥が六代目を 継ぐ 蠣崎藏人信純、蠣崎に錦帯城を築く 蠣崎藏人、蒙古・韃靼・ロシアより軍馬数百頭を異国 間湊に輸入する 奥戸貴太夫、当地に住む 4・南部義政秋田に出陣し湊安東氏と交戦 南部政経、勅命で八戸湊より奥戸に上陸、奥戸貴太夫 の案内で佐井越しに蠣崎に出、錦帯城を攻略、蠣崎藏 人は松前に逃げ、北部の地は再び八戸南部氏の支配と なる 義祥王を八戸桜山に奉ずる（長者山） 順法寺城、錦帯城が破壊され、恐山峰の寺も壊されて 恐山は一時中断 田屋熊野神社造られる 宏智聚覚和尚、吉祥山円通寺を建立	日本の史実 太田道灌、江戸城を築く 応仁の乱起こる 足利義政、銀閣寺を建立

六	四	天正 元	元龜 元	永祿 三	一〇	一八	一二	一〇	一二	天文 八	享祿 三
一五七八	一五七六	一五七三	一五七〇	一五六〇	一五六七	一五四九	一五四三	一五四一	一五四三	一五三九	一五三〇
7・20	大浦為信浪岡城を攻略。北畠顯村自刃し北畠	7・5 大浦為信の統一活動はじまる 川内の郷社八幡宮を勧請	蠣崎八幡宮を勧請	3・ 武田為信、大浦為則の婿養子となり宗家を継ぐ				猿ヶ森八幡宮造られる	6・ 三戸南部の本城、赤沼備中の放火で全焼し歴代の文書記録焼失	天台宗の山の恐山を釜臥山菩提寺と号し、曹洞宗の円通寺の別当所となる	
織田信長、安土城を築き移る	7・19 足利義昭が織田信長に降伏し、室町幕府滅亡			織田信長、桶狭間の戦で今川義元を破る				8・25 ポルトガル船、種子島に着いて鉄砲を伝える	7・3 ザビエル、鹿児島に来航しキリスト教を伝える		

年号	西曆	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
天正 七	一五七九	<p>家滅亡</p> <p>6・15 猿ヶ森一帯大津波、家屋流出多数</p> <p>下北半島に大地震と大津波。このため地形が大きく変わったという</p> <p>大浦為信、秀吉より津軽三郡合浦一円統治の教書を得、以来津軽氏と称す</p> <p>南部信直・津軽為信が小田原征伐に参加</p> <p>三戸南部が秀吉より和賀・志和・稗貫の三郡領有を認められ、居城を三戸から九戸に移し福岡と改める</p> <p>文祿の役で信直・為信も九州兵を送る秀吉の巡検使前田利家以下津軽来国、津軽四万五〇〇〇石と決定</p> <p>田名部に常念寺建立</p> <p>為信、浅瀬石城を攻略し津軽を統一</p> <p>南部信直、不来方の築城に下北の鉄を使用、のち不来方を盛岡と改める</p>	<p>6・2 織田信長、本能寺の変で殺される。四八歳</p> <p>羽柴秀吉関白となり翌年豊臣の姓を賜る</p> <p>奥州一円大閣検地</p>
一〇	一五八二		
一三	一五八五		
一六	一五八八		
一七	一五八九		
一八	一五九〇		
文祿 元	一五九二		
慶長 元	一五九六		
三	一五九四		
二	一五九七		

三	一五九八	盛岡城竣工し信直移住、10月に福岡城で没、三戸聖壽寺（現三光寺）に葬る田名部・盛岡間54里3丁26間、勤番武士の往復に夏は5日、冬は7日かかる	8・18 豊臣秀吉没、六二歳
四	一五九九	岩木山大爆発し冥暗2夜3日続く	9・ 関ヶ原の戦い
五	一六〇〇		2・11 徳川家康征夷大將軍となり江戸幕府を開く
八	一六〇三		
一六	一六一一	10・28 三陸地方に大地震、津波で田名部に死者千余人	
一七	一六一二	5・ 秋田の梅津氏が佐井に長福寺を開基	
一八	一六一三	川内に泉竜寺を建立	幕府よりキリスト教禁止令が出る
一九	一六一四	三陸に大津波	大坂冬の陣
元和	一六一五	大畑に禅達庵（現大安寺）を建立	大坂夏の陣で豊臣氏滅亡
二	一六一六	南部利直、田名部に代官所を置く	徳川家康没、七四歳
三	一六一七	陸奥国下北郡大間漁師司馬宇兵衛が鹿部村本村に移住、鹿部村開村となる	日光山東照宮造営される
		大畑に深山神社、中の沢に猿田彦神社を再建。田名部字道向に法呂神社勧請	
		蛇浦に折戸神社造られる	
		南部利直、八戸根城の清心尼から下北一帯を預かりの	

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
元和 六	一六二〇	名目で取り上げる 菊池正義の子正典、田名部城主となる	
八	一六二二	女館に法呂神社を勧請	
一〇	一六二四	脇野沢に八幡宮を造る	
寛永 二	一六二五	奥戸に崇徳寺建立。専受和尚が五戸村の徳玄寺を田名部へ再興	踏み絵始まる
六	一六二九	異国間に東伝庵建立	
七	一六三〇	大島の宝国寺、正津川の優婆堂建立	
九	一六三二	南部重直、田名部通を巡視	
一〇	一六三三	盛岡城完成し南部重直、高水より移る	外様大名に参勤交代の制を定める
一二	一六三五	南部藩三戸、五戸、八戸までを三戸郡一郡とする	島原の乱が起こる
一四	一六三七		
一五	一六三八	津軽藩、キリシタンを処罰	
一六	一六三九	南部九牧のうち奥戸牧を再興	鎖国完成
一七	一六四〇	飛騨高山より十一面観音を勧請、奥戸若宮観音建立 (現春日神社)	幕府、宗門改め役を置く。北海道駒ヶ岳 大噴火
一八	一六四一	岩木山大地震 南部藩が寺社奉行を置く	

大間町年表

二〇	一六四三	南部藩が禁教のため尻屋・尻労・大間・九艘泊・横浜・野辺地の沿岸を嚴重警備。南部藩、田名部通正津川辺に塩釜を築く	田畑の永代売買を禁止
正保元	一六四四	南部領飢饉	幕府、諸大名に郷村高帳、国絵図（地図）の作製を命ずる
二	一六四五	正保国絵図に田名部の港として大畑、大間、奥戸、大平、九艘泊があげられる	
三	一六四六	南部九牧のうち大間牧を再興	
四	一六四七	下風呂の浄土庵を建立	
慶安元	一六四八	老部に両皇宮神社を造る	
二	一六四九	大畑南町の八幡宮を深山から遷座	
承応元	一六五〇	蛇浦に慈観音を建立	
三	一六五〇	一東異寅が大畑に円祥山大安寺を建立	
二	一六五二	大佐井の西村家で「おしらさま」を祀る	
二	一六五三	滝山に稻荷神社造られる	
二	一六五三	北関根の神明宮（大日堂）再建	
二	一六五三	田名部通から一七九八貫九四〇匁の紫根を輸出し約三〇〇両の税収となる	

年号	西曆	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
承応 三	一六五四	大畑の高橋川で砂鉄を製錬(三二戸)	
明暦 二	一六五六	奥戸に林清山信願寺を建立、開基は山田伊右衛門	
三	一六五七	南部ヒバ江戸へ出荷 下風呂に稻荷神社造られる	1・18 江戸本妙寺から出火、江戸城本丸も炎上して死者一〇万人(振袖火事、明暦の大火)
万治 元	一六五八	大畑に本門寺を建立 城ヶ沢に清沢寺を建立	
三	一六六〇	能登屋長右衛門、川内本覚寺を建立	
寛文 元	一六六一	重直公、田名部柳町高丘に神宮を勧請 佐井に発信寺建立 田名部通のヒバが全国商品として登場 金谷に稻荷神社を開山 川内に熊野神社を勧請	京都の大火で皇居炎上
二	一六六二	上方商船一九六隻、松前船七六隻が田名部浦(川内・横浜・佐井泊)に着く	
三	一六六三	重直公、田名部薬師堂を造営(大覚院) 大畑釣屋浜に塩釜神社を勧請し塩焚きを行う	武家諸法度を改定、殉死を禁ずる
四	一六六四	八戸藩成立二万石、盛岡藩二九代重信八万石 蒲野沢に法林寺建立	

二	一六七四	湯の川温泉を開発	
延宝 元	一六七三	諸船より船税を徴収（佐井浦へ上方船一六隻・松前船八隻、奥戸浦へ上方船四隻・松前船六隻、異国間浦へ上方船三隻・松前船四隻）	
一二	一六七二	日遊が佐井の常信寺を開山	
一〇	一六七〇	砂子又には流流寺を建立	河村瑞軒、東回り航路を開き、陸奥幕領年貢米の輸送路を開発
九	一六六九	東通、田屋より大平に阿弥陀堂を移し、願求院を建立	河村瑞軒、西回り航路を開く
八	一六六八	大畑湊に稲荷石室を勧請	
五	一六六五	関根村に八幡神社造られる	
		重直公、田名部神明社を造営（永昌院）	
		円空、下北半島に足跡を印す（恐山の円空仏、大湊常楽寺の如来像、佐井長福寺の十一面観音像等）田名部に万人堂を建立	
		田名部郡代を廃し代官所を置く。七戸、野辺地にも代官所を置く	
		南部、下北の地元民の木材伐り出しを禁止し一三か山を「御留山」とする。田名部一円から他領への紫根・銅・牛馬の輸出を禁止	

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
延宝 二	一六七四	木野部黒森山に玉垂神社を勧請	
三	一六七五	南部藩が大平、大畑を船着湊に指定 脇野沢に悦心院を建立	
四	一六七六	蒲野沢村に稲荷神社建立	江戸で大地震
六	一六七八	異国間に大石神社を勧請	
七	一六七九	大畑に正教寺を建立 尻屋と牛滝に浦番所を設け、密貿易や盗伐等を取り締まる	
天和 元	一六八一	安渡（大湊）の兵主神社再建 南部領御在所酒屋数、下北では佐井二、大畑三、田名部三、川内二、奥戸一南部藩、新田開発を推進して十万石に復する	
二	一六八二	大間南家のオシラ様に年号が記載されている	
三	一六八三	正津川に優婆庵を再建。主神社を造る。	
貞享 元	一六八四	川内に憶念寺、佐井に法性寺建立。関根橋に妙見神社創建 小目名に大山祇神社を勧請	

大間町年表

一五	一三	一二	一一	九	八	七	六	元禄 元	四	三	二	
一七〇二	一七〇〇	一六九九	一六九八	一六九六	一六九五	一六九四	一六九三	一六八八	一六八七	一六八六	一六八五	
盛岡藩、飢饉凶作で減収八万俵、餓死者二万五〇〇〇	民衆救済のため滞納の年貢免除	盛岡藩、初めて領内富家から借り上げる	船の出入りを取り締まる	大間、奥戸など七湊を船着湊として湊役所を置き、回	大畑に代官所できる	大間の伊藤五左衛門、天妃馬祖大権現を遷座	南部領大飢饉で五万人が餓死	脇野沢に正堂寺建立	八戸藩、町検断を庄屋、肝煎を名主と改称	南部領大飢饉で五万人が餓死	大間に阿弥陀庵建立	田名部通の檜山法を改め山守一五人を置く。田名部、野辺地、七戸通の檜山二〇〇〇山に追回り剪出し(輸伐)制を実施
赤穂浪士、吉良邸に討入り										徳川綱吉、生類憐みの令を出す	南部岩手山大噴火	松尾芭蕉「奥の細道」を書く

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
宝永 元	一七〇四	奥戸に長弘軒建立	
二	一七〇五	南部藩、佐井伊勢屋より七〇〇〇両借金	
三	一七〇六	蒲野沢に八幡宮を勧請	
六	一七〇九	佐井古佐井に道祖神が造られる。岩屋に岩見神社を創建	
正徳 元	一七一―	大利に白山神社を創建	
四	一七一四	大間野、奥戸野に野馬改め帳を作成。 牛滝に神明宮、長後に稲荷神社、福浦に稲荷神社を創建	
六	一七一六	小沢に八幡宮を創建 佐井の能登屋長左衛門、伊勢屋与兵衛が御入用金一〇〇〇両ずつ納付	徳川吉宗、將軍となる
享保 元	一七一六	藩財政苦しく、大畑の古中津山を大坂商人天王寺弥右衛門に五万五〇〇〇両で一五年間立木伐採を許可	
二	一七二七	大間の福蔵寺境内で古碑（納経碑）を発見 奥戸に春日大明神を勧請、春日神社を建立	大岡越前守忠相、江戸町奉行となる
四	一七二九	原田に腰掛八幡宮、磯谷に八幡宮を創建	
五	一七二〇	田名部通の留山三八か山となる	

大間町年表

元文 二	一七三七	<p>大間・奥戸の牧場で狼狩り 南部藩が郷村制を施く 5・7 尻勞浦みとち川沖で羽州酒田米二三一俵積 みの船が難風で破船</p>	
一八 二〇	一七三三 一七三五	<p>領内一〇郡を三三通りに分け、二五か所に代官所を置 く</p>	
一七	一七三二	<p>材木・矢森大明神建立 正津川村に大明神建立</p>	
一五	一七三〇	<p>異国間に山神堂、大間村に新田市左衛門が百滝稻荷大 明神を勧請</p>	
一四	一七二九	<p>協野沢に協沢寺建立</p>	
一二	一七二七	<p>下北半島に狼多く捕獲を奨励</p>	
一一	一七二六	<p>大間村に天妃大権現祠を建立</p>	
六	一七二二	<p>大畑の代官所を廃止 藩牧大間野の馬数五七頭、奥戸野五八頭、田名部通の 弁財船数は一八（そのうち大間二）、天当小回船一三 四（うち大間五、奥戸二）</p>	<p>評定所に目安箱を置く</p>
		<p>戸数と人口は大間三六軒・四七一名、奥戸六五軒・一 一〇三名、田名部二二四軒・二万六七九五名</p>	

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
元文 三	一七三八	<p>5・8 尻労浦小沼沖で羽州米一九四〇俵積みの船が難風で破船</p> <p>7・ 米二二一九俵積みの船が大間浦弁天島陰と風船岩に激突し破船</p> <p>尻労浦難船の処置優秀につき田名部代官田内権左衛門に目録金三〇〇疋賜る</p> <p>田名部通七湊の問屋議定書ができる</p> <p>南部利視公、下風呂で湯治</p> <p>ロシア船が大間海岸に出没</p>	<p>エゾ大島の大爆発による大津波で死者一四六七人</p>
寛保 元	一七四一		
延享 三	一七四六		
宝暦 元	一七五一		

五	一七五五	<p>12・ 大間鰯網仲間儀定書を作成 馬匹調査で藩有九牧場の総頭数七一頭、うち大間野 一一二頭、奥戸一二七頭 南部四大飢饉の一（餓死者四万九千九百九十四人）のうち田 名部通の餓死者一四四人 南部領は凶作飢饉で死者六万人余、他領逃亡者四万人、 死馬二万頭 南部藩、田名部の檜山制度を改正し、二〇八か山を留 山とする。この留山制で失業者が増え林業から漁業へ 転向、蝦夷地への移住者が増える 佐井の百姓が多数松前に渡り、江差に佐井町をつくる 田名部通の馬数二四二頭、牛数三五五八頭、大間野 と奥戸野の馬数はそれぞれ九一頭に減る 南部藩の幕府御用金二万七〇〇〇両賦課 南部藩が野辺地、七戸、五戸、田名部の住民に御用金 を課す。田名部通は一〇〇〇両 田名部通に疫病流行し脇野沢村だけで一一六人死亡 大間戸数七二軒・人口三三三三人、奥戸戸数八三軒・人 口五二八人。大畑四〇〇軒、田名部三五四軒、安渡一 二八軒、川内二八二軒、脇野沢一八七軒、佐井一三八</p>
六	一七五六	<p>幕府、武家諸法度を頒布する</p> <p>前野良沢、杉田玄白が「解体新書」刊行</p>
一〇	一七六〇	
一一 明和 元	一七六一 一七六四	
七 安永	一七七〇 一七七三	
三 九	一七七四 一七八〇	

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	<p>天明三 一七八三 軒、蛇浦三八軒、異国間六八軒、下風呂五五軒 南部四大飢饉の一、翌四年までに四万人余が餓死 菅江真澄、エゾ地福山の東泊川より奥戸に入り、小谷 家に泊。「牧の冬枯れ」を著す 寛政四 一七八四 南部大飢饉がつづき人肉相食む惨状 菅江真澄、エゾ地福山の東泊川より奥戸に入り、小谷 家に泊。「牧の冬枯れ」を著す 五 一七九三 3・23 菅江真澄が大間浦の天妃祠の靈験を見込んで 「天妃縁起」を書く 越後から奥戸を通って大間、異国間、下風呂へ神輿が 渡来 六 一七九四 大間二六軒、緑高五八斛九斗三升三合。奥戸五〇軒 緑高八六斛七升一合 大間に津波 九 一七九七 伊能忠敬田名部通を測量。一〇月二〇日異国間↓佐井 一〇月二一日佐井↓下風呂 一一 一八〇〇 佐井↓箱館間の航路開く 一二 一八〇一 盛岡藩新造船如神丸を奥戸の喜伝治が造り、奥戸浦よ り出帆 二 一八〇二 大間村問屋、左衛門太・作右衛門、奥戸問屋、安兵衛・ 嘉兵衛</p>
		<p>浅間山大噴火 近藤重蔵、エトロフ島に「大日本恵土呂 府」の標柱を建てる 伊能忠敬、蝦夷地を測量 箱館に蝦夷奉行設置。のち箱館奉行と改 める</p>

<p>五</p>	<p>文化 元</p>
<p>一八〇八</p>	<p>一八〇四 一八〇七</p>
<p>大間に大砲台場五か所を設ける。大間八、材木一、大間烽煙台一を含む大砲三七挺を北郡の各砲台に備える 大間湊は北辺警備のため箱館に渡る要津となる 大畑代官所、三たび開く</p>	<p>田名部通三四村・六五枝村で二八八六戸、大間四四軒、奥戸一二九軒（本村九六、材木三三）、蛇浦四三軒、佐井一七二軒 箱館奉行戸川筑前守様御発駕御通行御心得回により、三月二七日上午刻田名部、四月二一日大畑・異国間、二二日大間休、佐井泊 蝦夷地警備の人士往来のため沿道の北郡郷民の負担が重く、検断・宿老が救済方を南部藩に訴える 大佐井口に八幡山道祖神が祀られる 公貴<small>こうき</small>君子、中野沢より佐井まで通行し米五〇俵を駅々に賜る 幕府目付遠山金四郎、普謁役最上徳内の一行、賑々しく佐井を通る 大間に大津波、村中に海水があふれる西蝦夷地を幕府直轄地とし南部・津軽両藩に警備が命ぜられる ロシア船、蛇浦沖に出現</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
文化 六	一八〇九	<p>蝦夷地警備の功により南部藩二〇万石となる</p> <p>下北巡回の藩主利敬侯、異国間を易国間と改めさせる</p> <p>大間で洪水、奥戸の大火で七五軒焼失</p> <p>4・5 津軽米積船、大間沖で難破</p> <p>9・6 字曾利山で開基慈覚大師九五〇年の供養会</p> <p>一二月、関根理右衛門、下風呂仁兵衛、易国間勝兵衛、蛇浦宇兵衛、大間弥兵衛、奥戸七右衛門、牛滝勘兵衛、佐井文治の各肝煎と大畑検断の伝蔵が一揆に及ぶ</p> <p>佐井の松谷回船問屋全盛を誇り、松谷伝四郎が苗字帯刀を許される</p> <p>奥戸若宮観音の正面地に稲荷神社建立</p> <p>一北の農民、新税免除を訴える</p> <p>目名不動院、放火で焼失</p> <p>菊池駿河が大間、蛇浦の杜司となる</p> <p>大畑の代官所を廃し新たに「北浦番所」を置き、ロシア船の監視にあたる</p> <p>一月、南部藩を盛岡藩と改める</p> <p>大畑・大間・奥戸・佐井・牛滝・川内・安渡を湊と称し、易国間・大平を浦とする</p>	<p>間宮林蔵、樺太を探検し間宮海峡を発見</p> <p>中川五郎次ロシアより松前へ帰国し、種痘を行う</p>
八	一八一一		
九	一八一二		
一〇	一八一三		
一一	一八一四		
一二	一八一五		
一三	一八一六		
一四	一八一七		
文政 元	一八一八		

八	一八二五	<p>3・3 佐井伊勢屋の飛び火で長福寺炎上（弘化二年本堂再建）</p> <p>佐井の法性寺、類焼（翌年再建）</p> <p>盛岡藩より田名部藩へ御用金八〇〇両仰せつかる</p> <p>天保の大飢饉（南部四大飢饉の一で七年間つづく）</p> <p>下北一円の凶作で佐井村の窮迫ひどく、軒数七六に減る（磯谷は七軒）。八戸藩で百姓一揆</p> <p>奥戸で奥川栄光が寺子屋を開く</p> <p>大飢饉で疫病流行</p> <p>南部領大飢饉</p> <p>田名部檜山大火事、江戸城西丸建築用材一万本と延鉄三万貫の献納を中止</p>	<p>幕府、異外船打ち払い令を出す</p>
<p>一一</p> <p>一三</p>	<p>一八二八</p> <p>一八三二</p> <p>一八三二</p> <p>一八三二</p> <p>一八三二</p>	<p>田名部通の租税は以下の通り。真木御礼銭・漁船御役銭・炭釜御役銭・温泉御礼銭・昆布取船御役銭・海川運上御役銭・小鱈御役金・船問屋御礼金・他領入酒御礼銭・合葉御礼銭・馬喰冥加銭・檜皮他領出御礼銭・他船往来御役銭・塩釜御役銭・売船御役銭・惣牛馬御役銭・昆布海苔御礼金・田名部諸湊間尺役御礼金等</p> <p>田名部通の俵物生産はイリコ八五〇〇斤、干鮑三万斤</p>	<p>シーボルト事件起こる</p> <p>江戸で米価が急騰し米の買い占めを禁止</p>
<p>八</p> <p>九</p>	<p>一八三七</p> <p>一八三八</p>	<p>大塩平八郎、大坂で乱を起こす</p> <p>江戸城西丸炎上</p>	<p>アヘン戦争起こる（一八四二）</p>
<p>一一</p> <p>一二</p> <p>一三</p>	<p>一八四〇</p> <p>一八四一</p> <p>一八四二</p>	<p>水野忠邦、天保の改革</p> <p>幕府、異国船打ち払い令を改める</p>	

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
弘化元	一八四四	盛岡南部藩、養蚕を奨励し戸毎に一〇本以上の桑苗を植えさせる	
四	一八四七	大間に地藏堂建立	
嘉永二	一八四九	松浦武四郎、三度北地探検に向かい、国後・択捉・千島諸島を調査し大畑に渡る	
三	一八五〇	易国間の能登屋が弁天丸を所有し、易国間・磯谷・大間の昆布など海産物や檜材を商う	
六	一八五三	佐井村の法性寺で寺子屋開設	米使ペリー浦賀へ来航
安政三	一八五六	新渡戸十次郎が大間・佐井・易国間・大畑・脇野沢・尻労の台場築造に成功	米総領事ハリス、下田駐在
五	一八五八	4・16 易国間へイギリス人六人上陸	
		4・17 易国間と蛇浦へアメリカ人が九人ずつ上陸	
		大間村にイギリス人一〇人、奥戸材木へ六人上陸	
		四〇代南部藩主利剛侯、大間沖で砲艦演習を行う	
万延元	一八六〇	佐井出身の田沢春堂らが箱館医学所（病院）を設置	日米修好通商条約
文久元	一八六一	大間に竜神堂建立	9・7 安政の大獄はじまる
二	一八六二	6・24 恐山で一千年祭	桜田門外の変

元治 元	一八六四	10・ イギリス商船アスモール号が大間弁天島で破船 大間、箱館、佐井、箱館間が開航 南部領凶作で百姓一揆起こる	箱館に五稜郭完成 長州征伐はじまる
慶応 元	一八六五	大間、奥戸両牧の馬数は、大間が父一・母六四・総数一〇四頭。奥戸が父一・母九一・総数一四三頭	全国的に一揆、打ち壊し起こる 徳川慶喜、大政奉還。王政復古の令
三	一八六七	12・24 南部藩、朝廷に降伏。北郡、三戸郡、五戸郡の取り締まりは津軽藩となる	7・17 明治維新、江戸を東京と改める 会津若松城開城降伏、野辺地戦争はじまる
明治 元	一八六八	大間と奥戸に肝人一人ずつ置き、村政をとらせる 田名部通は津軽藩に反対し、数千人が越訴して成功する。津軽藩に代わり黒羽藩(上野国)が三郡の取り締まりを命ぜられる	1・23 薩長土肥の四藩、版籍奉還 3・28 首都を東京に移す 5・18 榎本武揚投降し戊辰戦争終わる 蝦夷地を北海道と改める
二	一八六九	11・28 松平慶三郎(容大) 11歳に陸奥国斗南藩三万石を賜与	
三	一八七〇	3・27 山川大蔵、斗南藩の執政職を命ぜられる 5・15 松平容大、斗南藩知事に任命 6・ 大間、佐井に斗南藩士移住	1・27 国旗「日の丸」制定布告 9・19 平民に苗字許可 12・8 日刊紙の第一号「横浜毎日新聞」創刊
四	一八七一	2・18 斗南藩主仮館は田名部円通寺、藩庁日新館も五戸より田名部へ移る。青森より佐井・大間に斗南	1・24 郵便制度の誕生 4・4 戸籍法制定、明治五年二月一日

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
明治五	一八七二	<p>藩御用達の蔵米五五〇俵仕向ける</p> <p>5・6 松平容大(三歳) 移住藩士激励のため下北半島を巡回</p> <p>6・16 容大、佐井本陣能登屋に逗留</p> <p>7・20 旧会津藩主松平容保、函館より佐井に渡り大間・大畑を経て田名部到着</p> <p>8・3 斗南藩は斗南県となる(他に弘前県・黒石県・七戸県・八戸県・館県)</p> <p>8・25 松平容保・容大・喜徳の三人が田名部より東京へ移住</p> <p>9・4 七戸・八戸・斗南・黒石・館の五県を弘前県に併合し、田名部に出張所、大間に分局を置く</p> <p>9・23 弘前県を青森県と改め、本庁を青森に移し、田名部出張所を支庁に、大間分局は出張所となる。</p> <p>大間戸長は田中元長</p> <p>1・ 大間・奥戸・蛇浦・易国間・下風呂・大畑・長後の男子、田も漁も少なく大半が北海道へ出稼ぎ</p> <p>2・ 壬申戸籍で大間七七戸四五三人、奥戸一六八戸九七三人、計二四五戸一四二六人</p>	<p>より実施(壬申戸籍)</p> <p>5・10 両を改め円、銭、厘の単位確立</p> <p>7・14 廃藩置県(三府三〇二県)</p> <p>11・12 山川捨松、津田梅子ら五人、日本初の女子留学生として米国へ出発</p> <p>8・3 学制を頒布</p> <p>9・12 新橋・横浜間に鉄道開通</p> <p>11・9 大陰暦を廃し太陽暦を採用</p>

七	六
一八七四	一八七三
<p>10・30 下風呂小学開校</p> <p>10・27 易国間小学開校</p> <p>6・20 奥戸小学開校</p> <p>5・15 蛇浦小学開校</p> <p>2・5 邏卒を廃し巡査を置く</p> <p>9・15 蠣崎大火、八〇戸焼失</p> <p>7・23 大間稻荷神社に金比羅神を合祀</p> <p>7・11 大畑小学開校</p> <p>7・10 田名部小学開校</p> <p>7・8 川内小学開校</p> <p>7・1 大間小学校開校、生徒数三六人 主座教員・田中元長、教員・中条忠信（阿弥陀寺住職）</p>	<p>7・1 大間の熊谷権四郎宅で郵便業務開始</p> <p>3・1 大区小区制により、本県は一〇大区二九小区となる。下北は第六大区。大間・奥戸・佐井・長後・蛇浦・易国間の六か村を併合して第六大区第四小区とし、戸長を置いて大間に戸長役場を設け、各村に用係を置く。戸長に木村重孝</p> <p>5・23 大間稻荷神社に天妃神を合祀</p> <p>6・11 尻屋灯台起工</p> <p>7・1 大間小学校開校、生徒数三六人 主座教員・田中元長、教員・中条忠信（阿弥陀寺住職）</p>
<p>8・29 学校制度の制定により官・私立学校の別が明確になる</p> <p>男女混浴の禁止</p> <p>自由民権運動起こる</p>	<p>1・10 徴兵令発布</p> <p>7・28 地租改正条例</p> <p>9・15 祝祭日を定め休日とする</p> <p>元始祭・新年宴会・孝明天皇祭・紀元節・神武天皇祭・神嘗祭・天長節・新嘗祭</p> <p>12・1 郵便はがき発売、一枚半銭</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
明治 八	一八七五	11・ 佐井小学開校 大間・函館間渡船一八隻、旅客郵便輸送に従事 青森県大林区署大畑小林区署奥戸出張所設置（大間宮林署の前身） 6・ 北海道への出稼ぎは佐井二四六人、奥戸一八九人、易国間一二人、蛇浦六二人、長後三六人	5・7 ロシアと「樺太千島交換条約」に調印。日本は樺太の権利を放棄し、北千島を入手 11・5 徴兵令改正で国民皆兵となる 3・28 廃刀令発布
九	一八七六	2・25 最初の県議会開く 3・ 六大区の大間・奥戸は四小区（六か村）に入る 4・1 佐井小磯谷分教場開設 10・20 尻屋灯台竣工、同夜より点火 9・18 大間・大畑・川内・田名部に野辺地警察署の分署を置く（五警察署三六分署）	
一一	一八七八	4・ 大間村の木村重功「費金覚記」を刊行し、一六歳で上京 10・30 郡制を施行し、郡役所、郡長を置く。大区小	1・15 西南戦争起こる 4・12 東京帝国大学創立 9・24 西郷隆盛自刃、五〇歳

大間町年表

一六	一八八三	7・1 下北を五組に分け、組戸長役場を設置(翌年)	11・28 東京麴町に鹿鳴館開館
一五	一八八二	6・30 輸出入物品及び商船出入調の規則を発令。左の港で事務取扱いを行い、商船を嚴重に調査した。 大湊・川内・脇野沢・大畑・大間・佐井	7・20 最後の右大臣岩倉具視逝去、五九歳
一四	一八八一	12・ 北通りの戸数と人口は正津川一一九戸六九四人、大畑五三一戸二七七七人、下風呂七七戸四八三人、易国間八七戸五三五五人、蛇浦五八戸三二二人、大間八〇戸四九四人、奥戸一七二戸九五一人、佐井二二三戸一四九二人、長後六三戸四七四人	3・20 上野動物園開園 10・10 日本銀行が営業開始 日本の人口三六七〇万〇一一八人
一三	一八八〇	大間七九戸四九八人、奥戸一六九戸九五〇人	7・ 初の生命保険会社(明治生命)開業 東京神田で一月に一万一〇〇〇戸、一月に七七〇〇戸を焼く大火
一二	一八七九	区を廃止、田名部に下北郡役所を置く	6・4 東京招魂社を靖国神社と改称 6・ コレラが全国に蔓延し死者一〇万人に達した
一一	一八七八	とする採藻契約を結ぶ	11・3 イギリス人フェントン作曲の「君が代」を初めて天皇の前で演奏 東京神田で一月に一万一〇〇〇戸、一月に七七〇〇戸を焼く大火

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	<p>明治一七 一八八四</p> <p>一〇月廃止。第四組長役場を大間に置き、易国間・蛇浦・大間・奥戸・佐井・長後を管轄、戸長は木村重孝</p> <p>6・ 県議会議員選挙の下北有権者は田名部一〇人、奥戸三人、大畑一人、下風呂一人、川内二人の計七人</p> <p>7・ ロシア船三隻大間沖に出現。ロシア艦隊が尻屋沖で汽船「高島丸」を撃沈</p> <p>9・ 大間の佃栄太郎が鱧漁の道具を発明</p> <p>11・ 第四組戸長役場を廃し、大間他五か村戸長役場を大間に設置</p> <p>2・ 20 大間小学校全焼</p> <p>5・ 10 大間・奥戸とも尋常小学校となり修業年限四年。大間小男二九人、奥戸小男三八人、女四人</p> <p>七〇十一月、下北郡内でコレラ患者四九一人を出す</p> <p>12・ 下北地方、米田九％、稗田九一％</p> <p>1・ 大間にランプ点灯</p> <p>田中元長が大間他五か村の戸長となる</p> <p>9・ 大間尋常小学校校舍新築（現在役場のある</p> <p>各地で困窮農民の暴動ひん発</p> <p>12・ 22 初代総理大臣に伊藤博文が就任</p> <p>4・ 10 学制が施かれ、小学校の義務教育制が初めて提示される</p> <p>日本の人口三八一五万一二七人、戸数七七二万七六一〇戸</p> <p>8・ 19 関東・東北一帯で一〇一年ぶりに皆既日食</p> <p>東京―仙台間に鉄道開通</p>
一八	一八八五	
一九	一八八六	
二〇	一八八七	

<p>二三</p>	<p>一八九〇</p>	<p>5・7 府県制、郡制を公布</p> <p>7・15 村長に高畑熊三郎就任</p> <p>このころ、大間の回漕業者は若狭屋、蛸子修吉、山崎屋、伝法屋、淡路屋</p> <p>大間戸数七九戸、人口五三八人</p> <p>1・28 大間に田名部警察署大間分署を置く（大奥・風間浦・佐井を管轄、山本慶次郎宅）</p> <p>11・22 東奥日報社創立、翌月六日「東奥日報」第一号発行</p> <p>11・25 青森治安裁判所大間出張所開設（武内伝兵衛宅↓伝法分太郎宅）</p> <p>2・12 田名部警察署大間分署長に石川久治就任</p> <p>3・ 大間・奥戸両村に村営の隔離病舎を新設</p> <p>4・ 町村制施行により易国間・蛇浦に下風呂を加えて風間浦村に、佐井と長後は佐井村に、大間と奥戸が合併して大奥村とし、村役場を奥戸の小谷辰之助宅に置く。大間、奥戸の二区を設けて自治体の領域とする</p>	<p>7・1 衆議院第一回総選挙</p> <p>12・24 山県有朋内閣成立</p> <p>富山で米騒動</p> <p>1・22 改正徴兵令の公布により国民皆兵制となる</p> <p>2・11 大日本帝国憲法が公布される</p> <p>2・11 文相森有礼が胸を刺され翌日逝去、四三歳</p> <p>4・25 市制・町村制公布</p> <p>4・30 黒田清隆内閣成立</p> <p>5・29 キリンビール発売</p> <p>7・15 会津磐梯山が大噴火、四四四人の死者を出す</p>
<p>二二</p>	<p>一八八八</p>	<p>このころ、大間の回漕業者は若狭屋、蛸子修吉、山崎屋、伝法屋、淡路屋</p> <p>大間戸数七九戸、人口五三八人</p> <p>1・28 大間に田名部警察署大間分署を置く（大奥・風間浦・佐井を管轄、山本慶次郎宅）</p> <p>11・22 東奥日報社創立、翌月六日「東奥日報」第一号発行</p> <p>11・25 青森治安裁判所大間出張所開設（武内伝兵衛宅↓伝法分太郎宅）</p> <p>2・12 田名部警察署大間分署長に石川久治就任</p> <p>3・ 大間・奥戸両村に村営の隔離病舎を新設</p> <p>4・ 町村制施行により易国間・蛇浦に下風呂を加えて風間浦村に、佐井と長後は佐井村に、大間と奥戸が合併して大奥村とし、村役場を奥戸の小谷辰之助宅に置く。大間、奥戸の二区を設けて自治体の領域とする</p>	<p>7・1 衆議院第一回総選挙</p> <p>12・24 山県有朋内閣成立</p> <p>富山で米騒動</p> <p>1・22 改正徴兵令の公布により国民皆兵制となる</p> <p>2・11 大日本帝国憲法が公布される</p> <p>2・11 文相森有礼が胸を刺され翌日逝去、四三歳</p> <p>4・25 市制・町村制公布</p> <p>4・30 黒田清隆内閣成立</p> <p>5・29 キリンビール発売</p> <p>7・15 会津磐梯山が大噴火、四四四人の死者を出す</p>

年号	西暦		大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
明治二四	一八九一		<p>9・26 函館大森浜より佐井間に明治丸により海底電線の架設工事完成</p> <p>10・13 田名部より佐井間に電信線架設</p> <p>10・14 田名部大火で一八九六戸焼失</p> <p>10・29 野辺地区裁判所大間出張所と改める</p> <p>11・25 第一回通常議会召集</p> <p>9・1 東北本線全線開通</p> <p>11・ 下北郡内の学齢八一〇〇人の就学率は田名部二八・八%、大畑三〇%、風間浦四〇・六%、大間四四・九%、佐井三九・三%、東通二七%、川内三四・一%、大湊四〇・七%、脇野沢三六・一%科ができる</p> <p>4・ 大間小学校に修業年限三年の尋常小学校補習科ができる</p> <p>7・ 下北郡役所が道路新設に着工（現むつはまなすライン）</p> <p>6・ 下北半島沿岸に外国密猟船跳梁</p> <p>大間一一一戸七五六人、奥戸一六二戸一〇七六人</p>	<p>東京より横浜市内で電話交換開始</p> <p>10・20 議事堂落成、工費二五万円</p> <p>10・30 教育勅語発布</p> <p>北里柴三郎、ジフテリア・破傷風の血清療法を発見</p> <p>1・20 竣工間もない議事堂焼失</p> <p>5・6 松方正義内閣成立</p> <p>10・20 議事堂再建</p> <p>10・28 濃尾大地震で死者七二七三人</p> <p>8・8 第二次伊藤博文内閣成立</p>
二六	一八九三			<p>8・12 祝祭日唱歌選定、国家「君が代」制定</p>
二七	一八九四			<p>3・9 天皇・皇后の銀婚式で切手二種発行。記念切手の元祖</p>

大間町年表

二八	一八九五	この年、七戸で七戸象の化石発見	8・1 日清戦争勃発
二九	一八九六	5・28 田名部大火で二四九戸と役場、病院、神社、郵便電信局等焼失	4・17 下関条約成立、日清戦争終結
三〇	一八九七	6・15 三陸から尻屋にかけ大津波が襲い、死者二万七二二人、流失・全半壊家屋八八九一戸	9・18 第二次松方正義内閣成立
三一	一八九八	11・23 山内平八、初代校長として大間小学校に就任	全国に伝染病が大流行し、赤痢の死者二万二〇〇〇人、腸チフスで九〇〇〇人死
三二	一九〇〇	4・1 青森市制施行	亡
三三	一九〇一	6・18 大間尋常小学校、補習科を廃止し修業年限四年の高等科を設ける	10・1 金本位制が成立
三四	一九〇二	9・7 川内川大洪水、高水二・四〇メートル	1・12 第三次伊藤博文内閣成立
三五	一九〇二	1・1 田名部村が町制施行。戸数二二〇〇、人口一万三〇〇〇人	6・30 大隈重信・板垣退助による大隈内閣（隈板内閣）成立
		9・5 大間から県議会議員広谷六郎を出す	11・8 第二次山県有朋内閣成立
		12・ 尻屋崎灯台で石油機関発電による電灯点火	12・18 上野公園に西郷隆盛の銅像建立
		1・23 青森歩兵第五連隊、八甲田山雪中行軍で一九	1・21 勝海舟死去、七六歳
		灯台電灯使用第一号	9・15 函館大火で二四九四戸焼失
			2・3 福沢諭吉死去、六七歳
			4・29 迪宮裕仁親王（昭和天皇）ご誕生
			6・2 桂太郎内閣成立
			1・30 日英同盟調印、日露戦争の伏線

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	
明治三六	一九〇三	<p>七名凍死</p> <p>8・6 大間、奥戸を各一区域として衛生組合を設置</p> <p>9・ 東北大凶作、無収穫の下北は外国米輸入で急場を救う</p> <p>12・1 奥戸郵便受取所設置</p> <p>3・20 大間・奥戸漁師組合をそれぞれ大間、奥戸漁業組合と改める</p> <p>大間郵便局と改称</p> <p>2・ ロシア艦隊監視のため大間平の牧場そばに陸軍監視哨を設置</p> <p>4・ 大奥村役場を大間に移転</p> <p>7・20 大間沖にロシア軍艦三隻出現</p> <p>7・22 奥戸の大火で三六戸焼失</p> <p>8・ 大間小学校、恐山まで徒歩で修学旅行</p> <p>12・20 ロシア軍艦三隻大間沖に出現、水雷艇出港</p> <p>大間一九二戸・一一九〇人、奥戸一六、三戸・一一六八人</p>
三七	一九〇四	<p>となる</p> <p>9・19 正岡子規死去、三五歳</p> <p>12・ 米国公使館等の在日外交団が自動車の使用をはじめ</p> <p>5・21 東京・日比谷公園開園</p> <p>2・10 ロシアに対し宣戦布告</p> <p>7・1 煙草専売法施行</p> <p>日本総人口四七三二万一二九九人</p>
三八	一九〇五	<p>4・18 津軽海峡、防御海面に指定</p> <p>5・ 大間崎端に海軍望楼を設置</p> <p>1・3 旅順開城</p> <p>9・5 米国ポーツマスで日露講和条約</p>

大間町年表

三九	一九〇六	<p>7・15 大奥村長に高畑熊三郎就任</p> <p>4・1 青森港開港</p> <p>4・23 大間稲荷神社境内に「皇威宣揚碑」を建てる (乃木大将筆)</p>	<p>成立</p> <p>1・7 西園寺公望内閣成立</p> <p>9・1 煙草のゴールデンバット発売、 一〇本入り四銭</p> <p>函館大火、一万二三九〇戸焼失</p>
四〇	一九〇七	<p>5・23 大間消防組発足、組頭は竹内安五郎</p> <p>8・20 奥戸尋常高等小学校材木分教室設置</p> <p>9・11 青森区裁判所大間出張所と改称</p> <p>12・6 大間小学校に大間男子水産補修学校をつくる</p> <p>7・ 奥戸郵便局と改称し電信事務開始</p>	<p>国産自動車完成、自動車取締規則で時速 一二・七kmに制限</p> <p>4・1 小学校令改正で義務教育年限を 六年に延長</p>
四一	一九〇八	<p>1・5 大間尋常小学校校舎落成</p> <p>4・3 奥戸の崇徳寺失火で焼失(明治四五年再建)</p> <p>6・ 下風呂に徴兵所設置、毎年壮丁検査場となる</p> <p>11・ 大間町大間平五一町歩が国防上の要地として 陸軍省用地に編入</p>	<p>4・28 初のブラジル移民七八三名出発</p> <p>10・ 文部省が視学官、視察委員を置 く</p>
四二	一九〇九	<p>5・ 各小学校に電灯を取り付ける大間小学校が字 内山に東宮殿下行啓記念植林を行う</p>	<p>7・14 第二次桂太郎内閣成立</p> <p>10・26 伊藤博文、ハルビン駅頭で暗殺 される。六九歳</p>
四三	一九一〇	<p>5・3 青森市大火、七〇〇〇余戸焼失、死者二六八 人</p>	<p>8・22 韓国併合に関する日韓条約調印</p>
四四	一九一一	<p>1・24 大奥村が大間九九番地に五〇坪の庁舎新築を</p>	<p>1・24 大逆事件で幸徳秋水ら死刑執行</p>

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	<p>大正 二 一九一三</p> <p>決定、総予算四四二円六錢二厘</p> <p>4・15 青森県女子師範学校開校</p> <p>4・ 奥戸尋常高等小学校新築落成</p> <p>6・ 大間尋常高等小学校創立四〇周年記念式典</p> <p>1・19 大奥村役場移転(現商工会館の地)</p> <p>1・ 奥戸の佐久間要一が鮑の缶詰製造に成功</p> <p>5・23 田名部へ大畑間鉄道敷設測量開始</p> <p>10・ 大奥村四二二戸・三二五七人、佐井村三五九戸・三〇一四人、風間浦村三七七戸・二五〇〇人、大畑村六七二戸・四七一一人、田名部町一〇〇六戸・七八七五人、川内村一二二九戸・六五四一人</p> <p>3・25 大間港西防波堤工事起工</p> <p>4・1 佐々木吉三郎村長就任</p> <p>5・1 大間へ田名部間を自動車が行往</p> <p>10・ 下北一円大凶作。斎藤福松がワラビの根を掘る機械を開発。下北農民の救い神となる</p> <p>11・1 大間平に忠魂碑を建立</p> <p>12・ 大間の木村力衛らが発動機船喜宝丸を新造</p> <p>2・10 帝国劇場落成、日本最初の椅子席劇場</p> <p>4・9 東京新吉原大火、廓内の六五五〇戸全焼</p> <p>4・13 石川啄木死去、二六歳</p> <p>6・15 東海道線特急運転開始、東京へ下関間二五時間余</p> <p>7・5 東京にタクシー会社誕生</p> <p>7・30 明治天皇崩御、六一歳。大正と改元</p> <p>9・13 乃木大将夫妻殉死、大将六三歳</p> <p>日本総人口五二九一万一八〇〇人</p> <p>2・20 山本権兵衛内閣成立</p> <p>11・22 徳川一五代將軍慶喜逝去、七七歳</p>

七	六	五	四	三
一九一八	一九一七	一九一六	一九一五	一九一四
<p>1・4 大間処女会、奥戸処女会発足</p> <p>10・31 川内町制施行、戸数一三〇〇戸・人口七六〇〇人</p>	<p>7・19 東久邇宮殿下、陸軍用地の大間平・七郎平原野を視察。大間村民が生鮑を献納</p> <p>10・25 奥戸の小林孫八、鮑網の発明により農商務大臣の表彰を受ける</p>	<p>4・10 藤田政五郎村長に就任</p> <p>大間港の西防波堤二一八メートル完成</p> <p>大間～函館間定期航路開始</p>	<p>3・26 田名部常念寺の木造阿弥陀如来像一体を国宝に指定</p> <p>2・ 大間小学校の岳東迂人が「大奥村誌」を編纂</p> <p>4・1 奥戸尋常小学校材木分校新築</p> <p>6・26 大奥村消防組を改組、第一部（大間）一〇四人、第二部（奥戸）一〇四人</p>	<p>4・ 大畑に水産試験場分場を設置</p> <p>9・15 英国船ランゴ号五〇〇トンが大間弁天島で座礁破船し、乗組員は大間の熊谷旅館に止宿</p>
<p>8・2 政府シベリアへ出兵宣言</p>	<p>5・22 山形県米沢市で大火二三〇〇戸焼失</p> <p>12・9 夏目漱石死去、五〇歳</p> <p>10・9 寺内正毅内閣成立</p> <p>8・2 函館大火で一七六三戸焼失</p>	<p>11・10 大正天皇即位礼</p> <p>12・18 東洋一の東京駅開場</p> <p>8・23 第一次世界大戦に参戦、ドイツに宣戦布告</p> <p>4・16 第二次大隈重信内閣成立</p>		

年号	西暦	
大正 八	一九一九	<p>大間町および下北・青森地方の史実</p> <p>5・9 大間火災予防組合創立</p> <p>4・1 奥戸尋常高等小学校に実業補習科を設ける</p> <p>12・26 野辺地大火で二三二戸焼失</p> <p>2・22 大間の福栄丸が函館で遭難</p> <p>9・ 大間崎灯台起工</p> <p>10・1 第一回国勢調査施行。大間の戸数四〇一・人口二六九八人、奥戸二二二戸・一七二七人、下北人口五万二四七四人、県人口七五万六四一三人</p> <p>10・8 相内滋村長に就任</p> <p>12・17 佐井小学校矢越分教場開校</p> <p>この年大奥村内八〇歳以上の高齢者二二名、男三・女六、奥戸男五・女八、最高齢者奥戸九〇歳、大間八九歳</p> <p>3・13 大間に薬師堂建立</p> <p>5・19 田名部運輸株式会社設立。田名部、田名部駅（現赤川駅）四キロを馬車鉄道が走る</p> <p>5・23 下北銀行大間支店開店（現青森銀行）</p> <p>7・ 田名部を基点に乗合自動車運転開始</p> <p>9・13 私立奥戸青年団簡易図書館開設</p>
日本 の 史 実		<p>9・29 原敬内閣成立</p> <p>1・18 第一次世界大戦終わる</p> <p>3・1 東京でバス営業開始</p> <p>2・2 板垣退助死去、八二歳</p> <p>4・ 東京、大阪間無着陸飛行に成功、所要時間六時間四〇分</p> <p>5・1 上野公園で日本最初のメーデー</p> <p>8・ 第八回アントワープ・オリンピックに金栗選手ら初参加</p> <p>10・3 明治神宮竣工</p> <p>6・ 靖国神社の大鳥居竣工、高さ六九尺</p> <p>10・31 東京歌舞伎座全焼</p> <p>11・4 原敬首相が東京駅頭で暗殺され、九日後に高橋是清内閣成立</p>

大間町年表

一四	一九二五	2・ 1・19 9・ 9・3 9・ 2・25 1・ 11・10	下北郡役所が漁船取調表発表。下北の漁船総 大間納税組合発足 下北郡の人口五万二四七四人 津軽要塞司令部が大間岬に要塞設置を決定 下風呂で保険金詐欺による放火、一四戸全半 大間商業組合創立 焼、二人焼死	1・10 2・1 6・12 7・9 9・1 9・2 1・7 1・26 6・11 7・1 3・1	大隈重信死去、八四歳 山県有朋死去、八四歳 加藤友三郎内閣成立 森鷗外死去、六〇歳 午前一時五八分四四秒、関東 大震災。死者、行方不明一四万二八〇 七人、焼失家屋四四万七二二三戸 第二次山本権兵衛内閣成立 清浦奎吾内閣成立 皇太子（昭和天皇）、久邇宮良 子女王と御結婚 加藤高明内閣成立 メートル法実施 芝浦の東京放送局よりラジオの 試験放送開始。三月末の受信契約五四
一一	一九二二	1・ 3・3 1・2 4・1 11・10	大間宿屋組合発足 大間〜青森間航行の発動機船第二〇八幡丸 （一八トン）が、佐井焼山沖で難破し乗組員一六名 が溺死 下北の日本猿を天然記念物として保存に決定 大間・佐井線はじめ郡下の道路を県道に編入 大間岬砲台の土地測量に着手	1・10 2・1 6・12 7・9 9・1 9・2 1・7 1・26 6・11 7・1 3・1	大隈重信死去、八四歳 山県有朋死去、八四歳 加藤友三郎内閣成立 森鷗外死去、六〇歳 午前一時五八分四四秒、関東 大震災。死者、行方不明一四万二八〇 七人、焼失家屋四四万七二二三戸 第二次山本権兵衛内閣成立 清浦奎吾内閣成立 皇太子（昭和天皇）、久邇宮良 子女王と御結婚 加藤高明内閣成立 メートル法実施 芝浦の東京放送局よりラジオの 試験放送開始。三月末の受信契約五四
一二	一九二三	1・2 4・1 11・10	下北の日本猿を天然記念物として保存に決定 大間・佐井線はじめ郡下の道路を県道に編入 大間岬砲台の土地測量に着手	1・10 2・1 6・12 7・9 9・1 9・2 1・7 1・26 6・11 7・1 3・1	大隈重信死去、八四歳 山県有朋死去、八四歳 加藤友三郎内閣成立 森鷗外死去、六〇歳 午前一時五八分四四秒、関東 大震災。死者、行方不明一四万二八〇 七人、焼失家屋四四万七二二三戸 第二次山本権兵衛内閣成立 清浦奎吾内閣成立 皇太子（昭和天皇）、久邇宮良 子女王と御結婚 加藤高明内閣成立 メートル法実施 芝浦の東京放送局よりラジオの 試験放送開始。三月末の受信契約五四
一三	一九二四	1・ 2・25 9・3 9・ 2・25 1・ 11・10	大間商業組合創立 下風呂で保険金詐欺による放火、一四戸全半 焼、二人焼死 津軽要塞司令部が大間岬に要塞設置を決定 下北郡の人口五万二四七四人 大間納税組合発足 下北郡役所が漁船取調表発表。下北の漁船総	1・10 2・1 6・12 7・9 9・1 9・2 1・7 1・26 6・11 7・1 3・1	大隈重信死去、八四歳 山県有朋死去、八四歳 加藤友三郎内閣成立 森鷗外死去、六〇歳 午前一時五八分四四秒、関東 大震災。死者、行方不明一四万二八〇 七人、焼失家屋四四万七二二三戸 第二次山本権兵衛内閣成立 清浦奎吾内閣成立 皇太子（昭和天皇）、久邇宮良 子女王と御結婚 加藤高明内閣成立 メートル法実施 芝浦の東京放送局よりラジオの 試験放送開始。三月末の受信契約五四
一四	一九二五	2・ 1・19 9・ 9・3 9・ 2・25 1・ 11・10	下北郡役所が漁船取調表発表。下北の漁船総 大間納税組合発足 下北郡の人口五万二四七四人 津軽要塞司令部が大間岬に要塞設置を決定 下風呂で保険金詐欺による放火、一四戸全半 大間商業組合創立 焼、二人焼死	1・10 2・1 6・12 7・9 9・1 9・2 1・7 1・26 6・11 7・1 3・1	大隈重信死去、八四歳 山県有朋死去、八四歳 加藤友三郎内閣成立 森鷗外死去、六〇歳 午前一時五八分四四秒、関東 大震災。死者、行方不明一四万二八〇 七人、焼失家屋四四万七二二三戸 第二次山本権兵衛内閣成立 清浦奎吾内閣成立 皇太子（昭和天皇）、久邇宮良 子女王と御結婚 加藤高明内閣成立 メートル法実施 芝浦の東京放送局よりラジオの 試験放送開始。三月末の受信契約五四

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
昭和 二	一九二七	<p>数一四九九隻</p> <p>10・1 第二回国勢調査、大間の戸数七三六・人口五〇四二人</p> <p>6・24 府県制、市制、町村制改正で下北郡役所を廃止（六月三十日）</p> <p>6・ 奥戸漁業組合、乾鮑製造に着手、奥戸の佐久間要一が鮑の缶詰の製缶に成功</p> <p>7・1 大間警察分署が警察署に昇格</p> <p>9・3 田名部・大奥・脇野沢に氣象観測所を設置</p> <p>12・20 津軽要塞大間崎設定に伴い、大間憲兵分駐所を設置</p> <p>12・ 大間人口三三一七人、奥戸一八八二人</p> <p>3・25 出稼ぎ人続出のため大奥村奥戸に女子消防応援団発足</p> <p>5・29 弘前大火で四〇八戸焼失</p> <p>11・1 大間鉄道陳情委員が鉄道省、内務省、陸軍省へ陳情</p> <p>12・18 松尾日融が日蓮宗大間教会所をつくる</p> <p>この年、大間に初めてラジオが一台入る</p>	<p>五四件、受信料一か月一円</p> <p>4・22 治安維持法公布</p> <p>8・2 第二次加藤高明内閣成立</p> <p>1・30 岩槻礼次郎内閣成立</p> <p>4・25 東京駅に入場券自動発売機登場</p> <p>8・6 日本放送協会（NHK）創立</p> <p>12・25 大正天皇崩御、四八歳。昭和と改元</p> <p>4・20 田中義一内閣成立</p> <p>7・24 芥川竜之介自殺、三六歳</p> <p>8・13 甲子園の全国中等学校野球大会をラジオで放送、スポーツ放送のはじめ</p> <p>12・30 日本最初の地下鉄、上野～浅草間開通</p>

五	四	三
一九三〇	一九二九	一九二八
<p>6・25 大奥村役場庁舎新築、現在に至る（大間字寺二度とも保険金目当ての放火再び浜町より出火。</p>	<p>5・23 農林省が青森営林局内に田名部営林署、大間営林署の増設を決定</p> <p>5・27 斗南鉄道株式会社出願の田名部大間鉄道の敷設認可（田名部→大畑間）</p> <p>この年、奥戸大川目耕地整理組合工事起工</p> <p>6・2 佐井村浜町で出火、一五戸焼失。八月三十一日再び浜町より出火。</p>	<p>この年、大間火防衛生組合が村内六か所に公衆便所をつくる</p> <p>4・1 大間→函館間に定期船「第三八幡丸」航行</p> <p>7・ 門野重九郎他八名、私鉄大間鉄道出願（資本金四五〇万円）</p> <p>8・ 森又四郎、河野栄蔵、佐賀清太郎など、株式で大間鉄道出願（資本金二五〇万円）</p> <p>10・18 佐々木吉三郎が村長に就任</p> <p>11・10 大湊町制を施行</p> <p>12・28 大間鉄道下北郡大畑村→同大奥村間施設工事に免許（ただし施行されず）</p>
<p>11・14 浜口首相、東京駅で狙撃され、翌年八月二十六日没、六二歳</p>	<p>4・1 国産初のサントリーウイスキー発売</p> <p>7・2 浜口雄幸内閣成立</p> <p>10・24 暗黒の木曜日、世界大恐慌はじまる</p> <p>4・2 ロンドン軍縮会議</p> <p>10・1 昭和恐慌（一七年）</p>	<p>2・2 第一回普通選挙行われる</p> <p>5・21 野口英世アフリカで客死、五三歳</p> <p>7・1 治安維持法が改正され、特高警察発足</p> <p>11・10 天皇即位の大礼</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実			日本の史実
昭和六	一九三二	道四番地) 10・1 第三回国勢調査で大間の戸数五七四、人口三四一七人。奥戸人口二〇二七人 1・8 大間女子消防応援隊発足 8・7 奥戸大川目耕地整理組合の工事完了 10・ 下北一円大凶作で娘の身売り、一家離散続出 11・ 脇野沢村に職業紹介所を設置。同村からの県外出稼ぎ人三〇八人 12・22 大畑小学校全焼	八	3・3 三陸地方に大地震による大津波で一五三五人	4・13 第二次岩槻礼次郎内閣成立 8・1 日本初のトーキー映画「マダムと女房」封切 9・1 清水トンネル開通、全長九七〇メートル 9・18 満洲事変起こる 12・13 犬養毅内閣成立 1・28 上海事変勃発 3・1 満洲国建国宣言 5・15 五・一五事件で犬養首相暗殺される 5・26 斎藤実内閣成立 10・1 東京市が五郡八二町村を合併、ロンドンに次ぐ世界二位の都市となる(五三〇万人)
七	一九三一	1・3 大間青年団発足 1・4 大間処女会発足 4・2 大畑村新町で大火、目抜き通り一四八戸焼失 7・ 補習学校令により大間女子実業学校・佐井水産補習学校・田名部実践女学校を設立 9・6 大間に大奥村信用販売購買利用組合設立	七	3・27 日本、国際連盟を脱退	
一九三三			八		

一〇	一九三五	<p>6・7 大間小学校が「大間自立更生の原理」を出版</p> <p>二五人(七〇〇人とも)</p> <p>この年、大凶作と軍需インフレで県下の身売婦女五一</p> <p>11・16 大奥村役場内に田名部土木事務所大間派出所設置</p> <p>11・2 「東奥日報」が、下北郡の身売娘一〇六人と発表</p> <p>9・ 大間に電話開通</p> <p>8・ 川内耕地整理工事完了</p> <p>5・ 大畑町制を施行</p> <p>渡海</p>	2・18 貴族院で美濃部達吉の天皇機関
九	一九三四	<p>死亡</p> <p>この年、大間港湾第一期工事開始</p> <p>大間漁協所属の貨客船昭運丸を新造</p> <p>1・ 大間・大畑・易国間・下風呂・奥戸・佐井の各港が函館港と交易を始める</p> <p>1・ 易国間で電話交換を開始</p> <p>3・19 産業組合法によって大間に北通病院設立</p> <p>3・21 函館の大火(焼死二万四一八六戸、死者二〇五四人、行方不明六六二人)で大間から多数応援に</p>	<p>12・23 皇太子継宮明仁親王(現天皇)</p> <p>ご誕生</p> <p>12・24 東京有楽町に日本劇場開場</p> <p>4・21 忠犬ハチ公の碑建立</p> <p>5・30 東郷平八郎海軍元帥没、八八歳</p> <p>7・8 岡田啓介内閣成立</p> <p>9・20 室戸台風で死者二八六六人</p> <p>12・1 丹那トンネル開通(七八〇四メートル)</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
昭和一一	一九三六	<p>大間港湾第二期工事はじまる</p> <p>8・21 大間小学校が「大間郷土誌」を編纂</p> <p>8・25 下北バス(株)設立(大畑本社)</p> <p>11・ 大畑線、国有鉄道として着工</p> <p>6・27 大間漁業協同組合と改称</p> <p>12・ 東北商船・奥佐運輸・駒谷船舶部・下北運輸が合併し、資本金一五万円で青森商船株式会社を設立</p>	<p>10・1 第四回国勢調査で内地人口六九</p> <p>2・26 二・二六事件起こる</p> <p>3・9 広田弘毅内閣成立</p> <p>5・18 猟奇殺人阿部定事件起こる</p> <p>2・2 林銑十郎内閣成立</p> <p>6・4 近衛文麿内閣成立</p> <p>7・7 蘆溝橋事件(日華事変)起こる</p>
一一三	一九三八	<p>9・18 警察分署を大間分署、大畑分署、川内分署、田名部分署と決定</p> <p>10・ 大奥村戸数九四六戸、人口六〇六六六</p> <p>11・1 奥戸春日神社境内に忠魂碑を建立</p> <p>この年、大間警察分署管内の娘の売買は合計一四人</p> <p>7・4 大間の鮑が東京市場に進出し好成績をあげる</p> <p>8・ 大間・大湊に防諜団を組織</p> <p>10・ 大間港修築工事開始、五か年継続事業で総工費四八万円</p>	<p>6・8 吉岡隆徳が一〇〇メートル一〇秒三の世界タイ記録樹立</p> <p>8・12 陸軍軍務局長、永田鉄山少将が相沢三郎中佐に刺殺される</p> <p>11・20 皇居内に大本宮を設置</p> <p>4・1 国家総動員法公布</p> <p>7・5 第一二回東京オリンピック大会の返上を決定</p>
一四	一九三九	<p>4・ 下北の北通り海岸の磯焼けで鮑、海草の被害</p> <p>3・4 下北の各町村で警防団を組織</p>	<p>1・5 平沼騏一郎内閣成立</p> <p>1・15 横綱双葉山七〇連勝ならず</p>

大間町年表

<p>一六 一九四一</p>		<p>甚大 7・5 大間・佐井沖海底で昆布の密生を発見 11・ 特高係員が大間で不穩図書二一冊押収 12・6 大畑小学校で大畑線開通式を行う 10・31 奥戸上町民家より出火、一一戸焼火 12・9 津軽海峡が防御水域に指定される 4・23 佐井の仏ヶ宇多が農林省の名勝天然記念物に指定される 4・1 大間国民学校と改称 9・11 部落会、町内会、隣保班、市町村常会設置要項が通達される</p>	<p>5・11 ノモンハン事件起こる 7・15 国民徴用令実施 8・30 阿部信行内閣成立 9・1 第二次世界大戦はじまる 9・7 泉鏡花死去、六七歳 11・3 米穀類が国家の管理となる 1・16 米内光政内閣成立 7・22 第二次近衛文麿内閣成立 10・12 大政翼賛会発足 11・1 ダンスホール閉鎖 11・24 最後の元老西園寺公望死去、九二歳 12・31 隣組制度実施 4・13 日ソ中立条約調印 7・25 米英が日本の在米英資産凍結令を出す 10・18 東条英機内閣成立 12・8 対米英戦線布告、太平洋戦争に突入</p>
<p>一五 一九四〇</p>		<p>3・ 大間鉄道工事が本格化し、東京方面より出稼ぎ者約一六〇人来る 4・ 大奥村奥戸で青森鉱山、風間浦村で佐渡ヶ平鉱山などが操業開始 5・27 満州国黒河省へ大青森県農業移民村建設のための視察団渡満 9・11 部落会、町内会、隣保班、市町村常会設置要項が通達される</p>	<p>11・11 ノモンハン事件起こる 7・15 国民徴用令実施 8・30 阿部信行内閣成立 9・1 第二次世界大戦はじまる 9・7 泉鏡花死去、六七歳 11・3 米穀類が国家の管理となる 1・16 米内光政内閣成立 7・22 第二次近衛文麿内閣成立 10・12 大政翼賛会発足 11・1 ダンスホール閉鎖 11・24 最後の元老西園寺公望死去、九二歳 12・31 隣組制度実施 4・13 日ソ中立条約調印 7・25 米英が日本の在米英資産凍結令を出す 10・18 東条英機内閣成立 12・8 対米英戦線布告、太平洋戦争に突入</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
昭和一七	一九四二	11・3 下北郡大奥村を大間町として町制施行 12・9 下北一円で防空訓練実施、燈下管制強化	12・8 大東亜戦争一周年記念国民大会
一八	一九四三	4・2 奥戸崇徳寺焼失。翌一九九年再建	5・29 アッツ島で日本軍全員玉碎 12・1 全国出陣学徒初の一斉入営
一九	一九四四	3・29 加藤直次郎町長就任 11・7 大湊に空襲、釜臥山で戦死者出る 12・11 下北一円の国民学校高等科生徒、学徒勤労隊として大湊海軍工作部へ動員	7・22 小磯国昭内閣成立 8・10 グラム島守備隊玉碎 9・18 一七歳以上を兵役に編入決定 11・7 ゴルゲ、尾崎秀実処刑される人
二〇	一九四五	2・26 大間町大火、大間町繁華街をひとなめにして、六八戸を焼失 4・26 下北の各国民学校で防空演習実施 7・6 県下一円に空襲管制実施 7・14 函館、下北地方にグラマンF4戦闘機による空襲。翌一五日にかけて被害甚大 海軍特務艦「豊国丸」大間沖で爆弾を受け沈没。大畑に二人が漂着。一三五人死亡 7・15 大間町、大湊線下北駅付近、空襲により被害 また、大畑港を出航した釧路丸、グラマンの攻撃を受けて沈没	3・10 B 29爆撃機一三〇機で東京を空襲、罹災者一〇〇万人超える 4・7 鈴木貫太郎内閣成立 7・13 和平あつせんをソ連に申し入れ。 使節に近衛文麿を通告 7・18 ソ連、近衛使節派遣申し入れを拒否 8・6 広島に原子爆弾投下 8・9 長崎に原子爆弾投下 8・14 ポツダム宣言受諾を回答 8・15 天皇「終戦の詔勅」を放送

大間町年表

二二	一九四六	<p>7・26 青森市B29爆撃機の焼夷弾投下により、全市の九割が焼土となる</p> <p>8・9 大湊湾で駆逐艦「橘」、柳、巡洋艦「常盤」が沈没や大破</p> <p>9・8 アメリカ北太平洋艦隊大湊へ進駐</p> <p>3・22 佐々木吉三郎町長就任</p> <p>7・30 県教育委員会規程制定</p> <p>11・24 青森県庁全焼。県立図書館も類焼し蔵書六万冊焼失</p>	<p>8・17 東久邇稔彦内閣成立</p> <p>9・2 ミズーリ艦上で降伏文書調印</p> <p>9・27 天皇、マッカーサーをご訪問</p> <p>10・9 幣原喜重郎内閣成立</p> <p>11・25 GHQ、戦時補償の封鎖、公債発行許可制、戦時利得税と財産税の創設を指令、軍人恩給等停止の指令</p> <p>12・17 婦人参政の新選挙法成立</p> <p>1・1 天皇人間宣言</p> <p>2・1 第一次農地改革実施</p> <p>5・29 皇居前広場で食糧メーデー</p> <p>5・22 吉田茂内閣成立</p>
二二	一九四七	<p>4・1 奥戸小学校、大間小学校、大間中学校、大間中奥戸分校開校</p> <p>4・15 初の公選により和田兵吉町長就任</p> <p>9・ 第六回国勢調査により大間町全体一〇三五戸、人口六、二七四人</p> <p>11・25 奥戸中学校開校</p>	<p>1・20 学校給食はじまる</p> <p>4・1 教育基本法、学校教育法実施</p> <p>5・3 日本国憲法施行</p> <p>5・24 片山哲内閣成立</p> <p>6・8 日本教職員組合結成</p> <p>8・10 青森県に天皇陛下巡幸</p> <p>12・12 児童福祉法公布</p>
二三	一九四八	<p>1・23 大湊下町、菊池旅館から出火、二二戸焼失</p>	<p>1・26 帝銀事件起こる</p>

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	昭和二四	<p>一九四九</p> <p>4・1 県下新制高等学校発足（県立二二、公立一一） 田名部高等大間分校開校（定時制）</p> <p>4・18 大間漁業協同組合設立総会</p> <p>5・2 大間漁協、青森県知事より県内初認可（八戸、鱒ヶ沢、舟岡漁協とともに）</p> <p>5・15 奥戸漁協認可</p> <p>5・23 易国間漁協認可</p> <p>6・2 蛇浦漁協認可</p> <p>6・ 町営の火葬場新築</p> <p>9・14 下風呂漁協認可</p> <p>12・5 奥戸中学校の新校舎落成・式典（一〇月三日完成）</p> <p>4・ 私設大間保育園開設（昭和二八年四月県知事認可で私立となる）</p> <p>5・21 大間港が地方港湾の指定を受ける</p> <p>8・1 東通村吹切沢遺跡発掘はじまる</p> <p>8・29 田名部常念寺の阿弥陀如来像が国指定の重要</p>
日本の史実	一一五〇	<p>3・10 芦田均内閣成立</p> <p>7・17 昭和電工の汚職事件拡大</p> <p>9・15 主婦連合会結成</p> <p>10・7 第二次吉田茂内閣成立</p> <p>2・16 第三次吉田茂内閣成立</p> <p>7・5 下山定則国鉄総裁が行方不明となり、六日、れき死体で発見</p> <p>7・15 三鷹事件。中央線三鷹駅で無人列車が暴走し、死傷者二〇人</p> <p>8・17 松川事件。東北本線金谷川〜松川間で旅客列車が転覆</p> <p>11・3 湯川秀樹博士、日本人として初のノーベル賞を受賞（物理学賞）</p> <p>1・1 千円札発行される</p> <p>6・25 朝鮮戦争勃発</p> <p>7・2 金閣寺放火により炎上</p> <p>11・3 「君が代」復活</p> <p>11・20 対日講和米ソ会谈</p>

二二八	一九五三	<p>9・16 海上自衛隊大湊地方総監部創設</p> <p>9・26 ラジオ青森試験放送開始</p> <p>奥戸新釜土地改良区の開田三八ヘクタール</p>	<p>6・28 閣議で青函トンネル着工決定</p> <p>5・21 第五次吉田茂内閣成立</p> <p>一七インチテレビ一五万円</p>
二二七	一九五二	<p>県の高校進学率三〇・三六%</p>	<p>5・1 メーデー流血事件</p> <p>10・30 第四次吉田茂内閣成立</p> <p>11・10 皇太子明仁親王立太子礼</p> <p>2・1 NHKがテレビ放送開始。国産一七インチテレビ一五万円</p>
二二六	一九五一	<p>文化財となる</p> <p>2・23 大間仲浜町民家より出火、三七棟全焼</p> <p>3・21 奥戸青年会館落成式</p> <p>7・18 大間中学新校舍落成式挙行</p> <p>9・9 大間町自治署、住民投票で廃止決定</p> <p>10・1 県、全国に先がけて各都市に福祉事務所設置</p> <p>11・24 奥戸漁港、第一種漁港に指定される</p> <p>12・23 易国間の火災で住家六〇棟、非住家一六棟を焼失。消火に出動した大間消防団の車が転覆し死傷者出る</p>	<p>1・1 マッカーサー年頭声明で講和と日本の武装を強調</p> <p>5・1 東北電力会社発足</p> <p>5・8 オリソニック復帰成る</p> <p>6・21 ユネスコ総会、日本の加盟承諾</p> <p>9・4 サンフランシスコ講和会議。五二か国が参加、日本全権・吉田茂</p> <p>9・8 対日講和条約、日米安全保障条約調印、共産圏三国は調印に参加せず</p> <p>12・26 十和田湖、奥入瀬溪流を特別名勝に、平内の白鳥を特別天然記念物に指定</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
昭和二九	一九五四	<p>2・9 大間公会堂焼失</p> <p>9・26 青函連絡船「洞爺丸」台風で沈没し一一五二人死亡</p> <p>12・14 大間高等学校独立期成同盟会結成</p>	<p>12・25 奄美群島が本土復帰</p> <p>4・21 造船疑獄発覚</p> <p>7・1 自衛隊発足。陸上一二万、海上一万五〇〇〇、航空六二〇〇人</p> <p>10・6 尾崎行雄死去、九五歳</p> <p>12・10 鳩山一郎内閣成立</p>
三〇	一九五五	<p>2・15 下北一円のカモシカ特別天然記念物に指定</p> <p>4・ 海上自衛隊大湊航空隊設置</p> <p>4・ 私設奥戸保育園開設</p> <p>大間町一二七四戸、七八三五人</p>	<p>3・19 第二次鳩山一郎内閣成立</p> <p>8・6 第一回原水禁大会を広島で開催</p> <p>11・15 保守合同で自由民主党誕生</p> <p>11・22 第三次鳩山一郎内閣成立</p> <p>12・ 佐久間ダム完成</p>
三一	一九五六	<p>1・18 下北バスの尻屋線開通</p> <p>4・ 大間中学校生徒実習用に学校田七反五畝を開田する</p> <p>6・ 佐井く磯谷間に小型トラック道路開通</p> <p>10・ 奥戸中学校の校章と校旗ができる</p>	<p>10・19 日ソ漁業協定調印</p> <p>12・23 石橋湛山内閣成立</p>
三二	一九五七	<p>4・10 大間漁協、農山漁村建設総合施設補助事業と</p> <p>1・6 大間漁協、青森県水産製品検査場に指定される</p>	<p>1・29 南極大陸に昭和基地建設</p> <p>2・25 岸信介内閣成立</p> <p>8・27 東海村原子炉に原子の火ともる</p>

大間町年表

三三	一九五八	<p>して共同荷捌所を建設</p> <p>1・31 大湊小学校全焼</p> <p>3・29 本県のおしら様が無形民俗資料に指定される</p>	<p>10・1 五〇〇円札登場</p> <p>4・1 売春防止法施行</p> <p>6・12 第二次岸信介内閣成立</p>
三四	一九五九	<p>9・1 大湊と田名部が合併して大湊田名部市誕生 (翌年むつ市と改称)</p> <p>10・6 木造十一面観音像(佐井長福寺の円空仏)が 県重要文化財に指定される</p> <p>5・24 千り津波で県内被災世帯五〇〇〇以上、被害 総額五〇億円、死者一三九人</p> <p>6・25 大湊湾の白鳥、県の天然記念物に指定</p> <p>8・1 全国初の平仮名の市名「むつ市」誕生</p> <p>9・10 町立大間病院開院</p> <p>9・17 大間町商工会創立総会(一〇月一八日認可)</p> <p>12・ 大間簡易水道完成</p> <p>大間町戸数一四〇七戸、人口七九八二人</p> <p>2・4 大間漁業協同組合婦人部結成</p> <p>4・3 風間浦村易国間大火、一一九戸焼失</p> <p>3・27 大間町奥戸漁業組合付近から出火、中心街九 五戸焼失</p>	<p>4・10 皇太子ご結婚</p> <p>4・20 東海道新幹線起工</p> <p>4・30 永井荷風没、八〇歳</p> <p>9・26 伊勢湾台風猛威</p> <p>1・19 日米安全保障条約調印</p> <p>2・23 浩宮徳仁親王誕生(現皇太子)</p> <p>7・19 池田勇人内閣成立</p> <p>9・10 テレビのカラー放送はじまる</p> <p>10・12 社会党委員長浅沼稻次郎、右翼 少年に刺殺される</p> <p>12・8 第二次池田勇人内閣成立</p>
三六	一九六一		<p>6・12 農業基本法公布</p> <p>9・ 国内空路にジェット旅客機登場</p>
三七	一九六二		<p>2・1 東京都人口一千万三〇五五人</p> <p>2・2 八戸是川遺跡出土品六三三三点が</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	年号	西暦	日本の史実
昭和三八	一九六三	大間町および下北・青森地方の史実	四〇	一九六五	日本の史実
		<ul style="list-style-type: none"> 5・23 大間営林署管内の二股国有林で山火事、四一ヘクター焼失 6・1 「町報大間」発刊 11・29 大間漁協が海苔養殖試験開始 12・26 むつ市新庁舎落成 1・16 猛吹雪で遭難船が続出し、大間漁協史上最大の惨事 3・10 養護老人施設「釜臥荘」開園 5・30 鮑さし網漁業が禁漁となる 8・22 大間町奥戸で集団赤痢発生 奥戸地区に簡易水道完成 11・3 大間小学校創立九〇周年記念 7・2 日本で初の外洋フェリーポート大函丸が大間へ函館間に就航 10・15 第一回青森県水産まつりで、大間漁協が表彰される 11・17 組合広報活動のための有線放送施設完成 1・9 高潮の襲来で大間下手浜地区の家屋、漁船が 			<ul style="list-style-type: none"> 国の重要文化財に指定 5・17 サリドマイド禍発生 9・7 吉川英治死去、七〇歳 9・26 東洋一の吊り橋、九州の若戸大橋完成 2・5 日ソ貿易協定調印 3・31 村越吉展ちゃん誘拐事件発生 5・1 女高生誘拐殺人の狭山事件発生 12・8 プロレスラー力道山刺され、一五日に死亡 12・9 第三次池田勇人内閣成立 7・8 日本人の平均寿命、男六七・二歳、女七二・三歳と発表 10・1 東海道新幹線開通 10・10 東京オリンピック大会に九四か国七〇六〇人参加 11・5 佐藤栄作内閣成立 1・1 三沢市大火で三九九戸焼失

<p>四二</p>	<p>一九六七</p>	<p>8・27 橘善光が脇野沢で「擦文土器と住居跡」を発 記念物に指定</p> <p>3・30 大畑町大尽山のヒノキアスナロ林を県の天然</p> <p>この年、大間町の地籍調査開始</p> <p>電話開通</p> <p>12・11 むつ電報電話局の新局舎落成式。ダイヤル式</p> <p>11・6 奥戸小学校材木分校六〇周年記念式典を挙行</p> <p>11・1 大間中学校校歌つくられる</p> <p>10・7 第一回大間町民体育大会開催</p> <p>8・1 大間町の町章と町旗を制定</p> <p>7・1 大間・蛇浦共同漁業権漁場境界標識を設置</p> <p>2・ 北通地区学校警察連絡協議会発足</p> <p>1・20 川内町で氷点下一六・二度を記録</p> <p>11・5 奥戸小学校創立九〇周年記念式典を挙行</p> <p>10・ 大間戸数一五〇一戸、人口七七八三人</p> <p>5・27 小学校の教科書全県統一する</p> <p>漁船の二一人を逮捕</p> <p>3・30 大間漁協共同荷捌所施設完成</p> <p>5・26 佐井村で地元民と密漁船が衝突。大間署が密</p>	<p>7・30 谷崎潤一郎死去、七九歳</p> <p>8・13 池田勇人死去、六五歳</p> <p>10・21 朝永振一郎博士にノーベル物理学賞授与</p> <p>2・4 全日空ボーイング727が東京湾に墜落、一三三人全員死亡</p> <p>3・4 カナダ航空機DC8が羽田空港防潮堤に衝突炎上、六四人死亡</p> <p>3・5 BOACボーイング727が富士山頂で空中分解、一二人全員死亡</p> <p>9・15 最初の敬老の日</p> <p>10・10 最初の体育の日</p> <p>11・13 全日空のYS11機が松山空港沖に墜落、五〇人全員死亡</p> <p>2・17 第二次佐藤栄作内閣成立</p> <p>4・ 富山県の「イタイイタイ病」と「阿賀野川水銀中毒」は共に工場廃水</p>
<p>四一</p>	<p>一九六六</p>	<p>大被害</p>	

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	<p>昭和四三 一九六八</p> <p>見</p> <p>9・5 科学技術庁が大湊港を原子力船母港に決定 11・1 野辺地・むつ・大間を結ぶ「むつはまなすライン」の開通式挙行 11・3 町制施行二五周年記念式典及び大間小学校新築校舎落成記念式典を挙行 11・25 奥戸中学校創立二〇周年記念式典を挙行 5・16 十勝沖地震で下北全域に土砂崩れ、地盤沈下等の被害甚大 7・22 官報告示により、大間崎を含む「下北国定公園」が正式決定 11・8 大間町日和町バイパス完成 11・8 〃 第一〇回大間町農業水産祭開催 12・10 NHKと青森放送が大間町に中継局を建設し放送開始</p> <p>四四 一九六九</p> <p>1・7 大間漁協が県水産製品格付場所に指定される 2・23 田名部高校大間分校創立二〇周年記念式典 4・ 大間小学校にPTA婦人部結成 6・12 原子力船「むつ」進水</p> <p>が原因と判明 4・15 美濃部革新都政はじまる 10・20 吉田茂死去、八九歳。国葬</p> <p>10・1 東北本線複線電化完成 10・17 川端康成がノーベル文学賞受賞 10・23 政府主催で「明治一〇〇年記念式典」が行われた。 12・10 東京府中で三億円強奪事件発生</p> <p>1・10 東大安田講堂の封鎖解除 2・12 東京に気象観測史上最高の大雪 7・20 アポロ一一号が月面着陸 10・28 東京都が老人医療無料化を決め</p>

四六	一九七二	<p>1・15 法務局大間出張所新築落成</p> <p>12・1 大間町戸数一六五〇、人口七六七三人</p> <p>念物に指定される</p> <p>11・11 下北半島の猿及び猿棲息北限地が国の天然記念物に指定される</p> <p>8・26 奥戸小学校に簡易ビニールプール(六コース)完成</p> <p>8・7 大間中学校に簡易ビニールプール(八コース)完成</p> <p>7・20 大間漁協創立二〇周年記念式典</p> <p>7・19 原子力船「むつ」母港に接岸</p> <p>4・4 奥戸僻地保育所開設</p>	<p>5・14 横綱大鵬引退</p>
四五	一九七〇	<p>8・ 「むつはまなすライン」全長二〇〇km 全面舗装</p> <p>9・1 繁殖牛ヘレフォード(牝) 八〇頭を購入し、大間牧場で繁殖センター事業を開始</p> <p>1・ 東京電力・東北電力が東通村に原子力発電所の建設構想を発表</p> <p>3・25 材木分校を奥戸小学校に統合</p> <p>4・1 「むつはまなすライン」国道二七九号線に昇格</p>	<p>る</p> <p>1・14 第三次佐藤栄作内閣成立</p> <p>3・15 日本万国博が大坂で開幕</p> <p>3・31 日航機「よど号」赤軍派にハイジャックされる</p> <p>4・24 仙台バイパス開通</p> <p>5・20 東北縦貫自動車道起工式</p> <p>6・22 日本安保条約、一〇年の期限切れで自動延長</p> <p>7・15 都心に歩行者天国できる</p> <p>11・3 棟方志功文化勲章受章</p> <p>11・25 三島由紀夫自殺、四五歳</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
昭和四七	一九七二	<p>6・1 大間町にごみ焼却炉完成</p> <p>6・30 大間町と戸井町が姉妹町締結調印</p> <p>7・1 戸井と大間間に東日本フェリー第六大函丸就航</p> <p>8・8 大間漁協組合事務所新築落成記念式典</p> <p>10・28 大間町民体育館竣工</p> <p>12・23 大間と室蘭間に東日本フェリー「室蘭丸」就航</p> <p>7・17 大間漁協が漁業監視船「はやぶさ丸」を新造</p> <p>10・ 大間警察署が鮑密漁団四〇人検挙</p> <p>11・3 大間町制施行三〇周年記念式典で町功労者を表彰</p> <p>12・15 大間漁協で「はやぶさ丸」、製氷庫、冷蔵庫、共同荷捌所施設の落成式</p>	<p>5・14 大久保清の連続女性殺人事件発覚、暴行二人、殺害八人</p> <p>6・17 沖繩返還協定調印式</p> <p>7・3 東亜国内航空「ぼんたい」YS-11が横津岳に衝突、六八人死亡</p> <p>7・30 全日空ボーイング727と自衛隊のジェット戦闘機が岩手県雫石上空で衝突、全日空機の一六二人全員死亡</p> <p>10・21 志賀直哉死去、八六歳</p> <p>2・19 「あさま山荘」事件発生</p> <p>4・16 川端康成自殺、七二歳</p> <p>7・7 田中角栄内閣成立</p> <p>9・29 日中国交正常化の共同声明</p> <p>11・6 急行「きたぐに」が北陸トンネル内で火災、死者二九人、負傷者七一人の惨事</p> <p>12・22 第二次田中角栄内閣成立</p> <p>8・7 韓国新民党の金大中、東京のホテルから拉致される</p>
四八	一九七三	<p>1・2 第一回大間町書初席書大会開催</p> <p>4・1 大間恵愛幼稚園できる（昭和五五年三月閉</p>	

四九	一九七四	<p>園)</p> <p>7・26 原子力船開発事業団が、むつ湾及び日本海での出力試験を漁民の反対で断念し、太平洋で行うと発表</p> <p>8・ 第一回函館下北子ども交流会が函館市で開催</p> <p>8・8 奥戸の山で子熊を、材木で親熊を捕獲</p> <p>8・9 大間漁協と大間警察署が密漁対策で懇談会を開催</p> <p>9・24 二三日早朝以来二四日にかけて、最高二七七ミリの集中豪雨で下北半島各地で大被害。国鉄大畑・大湊線は十勝沖地震に次ぐ大被害を受ける。五四〇〇戸浸水、死者四人、田畑一〇〇〇ヘクタール冠水、被害総額四七億円を越す</p> <p>大間～大畑間の道路三六か所決壊寸断(下風呂で一人死亡)</p> <p>11・1 大間小学校創立一〇〇周年記念式典。校歌制定</p> <p>11・23 弥生式では県内初の貝塚である大間貝塚を発掘(一、二五日)</p> <p>4・1 大間町体育協会発足</p>
3・12	<p>元陸軍少尉小野田寛郎がフィリ</p> <p>10・16 第一次オイルショック</p> <p>11・29 熊本市のデパートの昼火事で一〇三人焼死</p> <p>12・10 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞を受賞</p>	

<p>五二 一九七七</p>	<p>記・勲章の伝達式</p>
<p>6・29 大間消防分署竣工</p> <p>6・20 奥戸小学校創立一〇〇周年記念式典</p> <p>3・20 奥戸小学校校舍新築落成</p> <p>12・24 佐井村のオオウラヒダイワタケが国の天然記念物に指定</p> <p>11・ 第一回大間町文化展開催</p> <p>10・11 大洞山福蔵寺新築落慶式</p> <p>10・11 全世帯が町内会を設立</p> <p>9・10 材木の大栄橋竣工</p> <p>7・27 大間警察署新庁舎落成</p> <p>6・23 大間警察署管内三か町村の死亡事故ゼロ一五〇〇日達成</p> <p>6・7 大間畜産農協で出資金のうちの二〇五〇万円、借入金二〇〇万円の使途不明金が発覚</p>	<p>3・25 大間町の新ごみ処理工場完成</p> <p>4・28 大間町商工会が「原発設置の環境調査」を求める請願書を町議会に提出</p> <p>6・1 大間町に環境調査対策室が発足。大間原発反対共闘会議が結成される</p>
<p>8・7 北海道の有珠山が三二年ぶりに</p> <p>4・13 サッチャー英首相来日</p> <p>3・15 日ソ漁業交渉難航</p>	<p>2・24 ロッキード事件で強制捜査</p> <p>4・9 武者小路実篤死去、九〇歳</p> <p>7・27 田中角栄前首相、受託収賄罪と外為法違反で逮捕</p> <p>9・6 ソ連のミグ25戦闘機が函館空港に強行着陸。ベレンコ中尉は九日にアメリカへ亡命</p> <p>10・29 酒田市で大火、一〇五九戸全焼</p> <p>11・10 天皇在位五〇周年式典</p> <p>12・24 福田赳夫内閣成立</p>

年号	西暦	
大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実	<p>昭和五三 一九七八</p> <p>7・14 旧海軍特務艦「豊国丸」の遭難記念碑除幕式 9・25 大間警察署管内交通事故死ゼロ記録一九六一 日ですトップ 11・3 大間中学校創立三〇周年記念式典 11・23 奥戸中学校三〇周年記念式典 4・ 下北バス、大間町下地域の運行を開始 4・1 下手浜保育所開設 5・26 大間原発の環境調査を三か町村合意で開始 8・10 県政懇談会で県側が大間原発の了承方針を表 明 10・18 全国物価統計調査で大間町が総理大臣表彰を 受ける 12・5 材木・奥戸で第一回移動役場を開く 12・8 豊作行事のえんぶりが国の重要無形文化財に 指定 5四 一九七九</p> <p>8・8 材木に共同墓地完成 6・19 第一回内山公園桜まつり開催される 3・14 大間平テレビ中継放送所開局 2・14 大間町商工会創立二〇周年記念式典</p> <p>噴火、損害三三〇億円 9・28 日本赤軍が日航機をハイジャック、政府は超法規措置をとる 5・17 本州と北海道を結ぶ国内最長海底ケーブル四四kmの建設開始 5・20 新東京国際空港（成田空港）開港式 6・12 宮城県沖でM七・五の大地震発生。宮城県の死者二七人 8・12 日中平和友好条約調印 12・7 大平正芳内閣成立 この年サラ金被害激増 1・4 グラマン疑獄発覚 1・13 初の共通一次大学入試 1・20 奈良市の畑から大安万侶の墓を発見</p>

大間町年表

	五六	五五
	一九八一	一九八〇
<p>6・ 第一回函館下北婦人交流会、大間町で開催</p> <p>5・16 第一回大間町クロスカントリー大会を開催</p> <p>5・10 大間町連合青年団結成</p> <p>2・27 深浦の日本最古の北国船の絵馬が国の重要文化財に指定される</p> <p>無作</p> <p>1・10 五五年度の大間町・風間浦村の水稻収量は皆</p>	<p>10・1 大間ライタリークラブ結成</p> <p>10・10 中華民国台湾省雲林県の虎尾鎮と姉妹都市締結</p> <p>11・21 第一回大間町音楽祭を開催（大間小学校体育館）</p> <p>11・3 大間漁業協同組合三〇周年記念式典</p> <p>1・29 大間町勤労青少年ホーム落成</p> <p>3・8 大間郷土芸能保存会の第一回発表会を中央公民館で開催</p> <p>3・9 東通村の能舞が県重要民俗文化財に指定</p> <p>4・1 大間町立大間幼稚園開園・入園式</p> <p>5・13 大間町で「県知事と語るつどい」を開催</p> <p>12・25 大間町農業研修センター「豊栄館」落成</p>	<p>11・9 第二次大平正芳内閣成立</p> <p>4・25 モスクワオリンピック大会への不参加を政府決定</p> <p>・12 大平正芳首相急死</p> <p>7・17 鈴木善幸内閣成立</p> <p>7・5 日本人の平均寿命、男七三・四六歳、女七八・八九歳（厚生省）</p> <p>8・27 国鉄の累積赤字六兆円を突破</p> <p>2・23 ローマ法王ヨハネ・パウロ二世来日</p> <p>10・6 北炭夕張炭鉱のガス火災で死者行方不明九三人</p> <p>10・19 福井謙一、ノーベル化学賞受賞</p>

年号	西暦	
昭和五七	一九八二	<p>大間町および下北・青森地方の史実</p> <p>8・12 大間温泉養老センター開業 9・1 国道二七九号線大間バイパス全線開通 6・3 町制施行四〇周年で町民憲章、町木（黒松）、町花（はまなす）、町鳥（カモメ）を定める 6・24 大間原発予定地、白砂地域の環境調査開始 8・5 町制施行四〇周年記念式典挙行 大間町総合開発センター及び町立海峽保養センター落成 12・ 奥戸漁業協同組合新築落成</p>
日本 の 史 実		<p>2・8 ホテル・ニュージャパンの火災で三二人死亡 2・9 日航機、羽田沖に墜落 4・1 五〇〇円硬貨発行 6・4 五五年度県民所得一人当たり一 二二万八〇〇〇円 6・23 東北新幹線大宮～盛岡開業 9・6 原子力船「むつ」四年ぶりに大湊へ入港 10・14 新青森空港起工 11・27 中曾根康弘内閣成立 9・1 大韓航空機がソ連の戦闘機に撃墜される 10・12 田中角栄元首相に懲役四年、追徴金5億円の判決 11・9 レーガン米大統領来日 12・27 第二次中曾根康弘内閣成立</p>
五八	一九八三	<p>3・16 大間に新型転換炉建設決定 5・26 日本海中部沖地震発生により役場庁舎の被害甚大。仮庁舎を総合開発センターとし、十二月まで業務を行う 4・14 電源開発(株)両角総裁立地環境調査実施協力要請のため来町</p>

六〇	一九八五	<p>3・21 材木地区に大間町農村婦人の家落成</p>	<p>2・27 田中角栄元首相が脳梗塞で倒れ、ぶりの豪雪</p>
五九	一九八四	<p>12・16 「お山参詣」が国の重要無形文化財に指定される</p> <p>12・11 電源開発(株)大間ATR展示館オープン</p> <p>11・22 大間町議会、原子力発電所の誘致を決議</p> <p>10・28 大間高校創立一〇周年記念式典挙行</p> <p>10・10 大間町にエゾシカ出没</p> <p>7・28 佐井村の「福浦歌舞伎」県文化財に指定</p> <p>7・14 第一回密漁防止町民大会開催</p> <p>7・13 第三二回下北郡社会福祉大会を大間町総合開発センターで開催</p> <p>1・1 大間病院救急病院の指定を受ける</p>	<p>3・18 グリコ・森永事件発生</p> <p>8・11 ロス五輪柔道で斎藤仁選手が金メダル</p> <p>10・1 日本一の昭和太仏(二・三メートル)青森市に完成</p> <p>10・9 青森県の水稲作況指数百九「良」で全国一の大豊作</p> <p>10・31 第二次中曾根内閣で竹内黎一代議士が科学技術庁長官に就任</p> <p>11・1 一万円、五〇〇〇円、一〇〇〇円の新紙幣発行</p> <p>12・28 青森市の積雪一〇三cm、八七年</p>

年号	西暦	
昭和六一	一九八六	<p>大間町および下北・青森地方の史実</p> <p>4・18 核燃料サイクル施設、六ヶ所村立地正式調印 4・23 密漁防止対策協議会で大間町密漁防止パレードを実施 10・1 国勢調査で大間町世帯数九九戸、人口七〇七七人 10・24 むつ市で五億円強奪事件発生 10・28 下北文化会館落成式で大間町の津軽海峡海鳴り太鼓出演 11・20 大間町密漁防止町民大会実施参加者六〇〇人 2・24 総合開発センターで大間、風間浦、佐井の一町二か村が合同の密漁防止総決起大会を開く 5・28 長寿青森県一だった大間町の武内たかさん、一〇六歳で逝去 6・15 日本野鳥の会が、弁天島のウミネコの数調査。約五〇〇〇羽 8・14 大間消防団に大型一〇トン積水槽車配置</p>
日本の史実		<p>田中支配に終止符 3・10 青函トンネル本坑着工以来二年ぶりに貫通 4・1 NTT新発足（民営化） 6・8 東洋一の大鳴門大橋開通、一六九メートル 8・12 日航機が群馬県御巢鷹山に墜落し死者五四〇人。生存者四人 4・20 ソ連チエルノブイリ原発事故発生 4・29 天皇御在位六〇年記念式典 5・8 ダイアナ妃来日、フィーバーとなる 7・22 第三次中曾根康弘内閣成立 7・30 東北縦貫自動車道（青森〜浦和間）全通 9・6 社会党初の女性委員長土井たか子を選出 11・15 三原山が二〇〇年ぶりに大噴火</p>

大間町年表

<p>平成 元 (昭和六四)</p>	<p>一九八九</p>	<p>4・15、16 函館市を会場に第一回函館下北青年交流 会開催 6・22 川内町、佐井村と大間町と合同で中学生親善 使節団を台湾へ派遣 8・15 大間原発用地買収が遅れ、一年間繰り延べが 決まる</p>	<p>4・1 国鉄分割民営化 7・17 石原裕次郎死去、五二歳 10・12 利根川進、ノーベル医学生理学 賞受賞 11・6 竹下登内閣成立 3・13 青函トンネル津軽海峡線開業 4・10 瀬戸大橋開通 6・ リクルート疑惑発覚 7・1 文部省生涯学習局発足 7・9 青函博開幕 8・9 阿光坊遺跡(上北郡下田町)本 州最北の古墳と判明 10・1 ソウル五輪柔道九五キロ超級で 斎藤仁選手金メダル獲得 昭和64・1・7 昭和天皇崩御 2・28 佐賀県吉野ヶ里遺跡で弥生中期 の大墳墓丘発見 4・1 消費税実施 6・2 宇野宗佑内閣成立 6・24 美空ひばり死去、五二歳</p>
<p>六三</p>	<p>一九八八</p>	<p>7・1 大間、函館航路に一七年ぶりに新造船東日本 フェリーボート「ばあゆ」就航(一五三〇トン)。 大間、函館間一〇〇分 10・10 第一回ベコまつり開催 10・13 奥戸中学校体育館完成 10・21 恐山で世界最高品位の金鉱床を確認</p>	<p>4・10 瀬戸大橋開通 6・ リクルート疑惑発覚 7・1 文部省生涯学習局発足 7・9 青函博開幕 8・9 阿光坊遺跡(上北郡下田町)本 州最北の古墳と判明 10・1 ソウル五輪柔道九五キロ超級で 斎藤仁選手金メダル獲得 昭和64・1・7 昭和天皇崩御 2・28 佐賀県吉野ヶ里遺跡で弥生中期 の大墳墓丘発見 4・1 消費税実施 6・2 宇野宗佑内閣成立 6・24 美空ひばり死去、五二歳</p>
<p>六二</p>	<p>一九八七</p>	<p>5・6 電源開発(株)藤原社長が来町 8・12 第一回舟競争大会、半世紀ぶりに大間港で復 活 11・21 大間中学校創立四〇周年記念式典 12・16 むつ市関根浜の原船「むつ」の新定係港完工 2・1 原船「むつ」六年ぶり機能試験を開始 7・1 大間、函館航路に一七年ぶりに新造船東日本 フェリーボート「ばあゆ」就航(一五三〇トン)。 大間、函館間一〇〇分 10・10 第一回ベコまつり開催 10・13 奥戸中学校体育館完成 10・21 恐山で世界最高品位の金鉱床を確認</p>	<p>4・1 国鉄分割民営化 7・17 石原裕次郎死去、五二歳 10・12 利根川進、ノーベル医学生理学 賞受賞 11・6 竹下登内閣成立 3・13 青函トンネル津軽海峡線開業 4・10 瀬戸大橋開通 6・ リクルート疑惑発覚 7・1 文部省生涯学習局発足 7・9 青函博開幕 8・9 阿光坊遺跡(上北郡下田町)本 州最北の古墳と判明 10・1 ソウル五輪柔道九五キロ超級で 斎藤仁選手金メダル獲得 昭和64・1・7 昭和天皇崩御 2・28 佐賀県吉野ヶ里遺跡で弥生中期 の大墳墓丘発見 4・1 消費税実施 6・2 宇野宗佑内閣成立 6・24 美空ひばり死去、五二歳</p>

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
平成二	一九九〇	<p>9・ 風間浦村に密漁監視のレーダー塔完成</p> <p>1・ 下風呂漁港公園完成</p> <p>2・ 24 大間中学校体育館落成式</p> <p>4・ 大間崎に東北初の電波の灯台完成</p> <p>5・ 第二回函館下北青年交流、大間町で開催</p> <p>7・ 11 大間原発用地買収開始</p> <p>9・ 29 国際姉妹町締結一〇周年で虎尾鎮へ行政視察 団訪問</p> <p>三 一九九一</p> <p>3・ 12 第一回大間町ドッジボール大会開催</p> <p>3・ 13 「東通村の獅子舞」県無形文化財に指定</p> <p>3・ 31 四月より大間崎灯台無人化となり、灯台守七〇年の歴史に幕</p> <p>6・ 30 大間町で大間・戸井姉妹町締結二〇周年記念式典</p> <p>9・ 22 第一回健康まつり開催</p> <p>10・ 交通事故死ゼロ三〇〇〇日達成 (四年三月三十一四五日でストップ)</p>	<p>8・ 10 海部俊樹内閣成立</p> <p>2・ 28 第二次海部俊樹内閣成立</p> <p>4・ 1 大阪で「国際花と緑の博覧会」開幕</p> <p>6・ 29 礼宮さま・紀子さまご結婚 (秋篠宮)</p> <p>7・ 27 新青森空港全面開港</p> <p>8・ 4 日本人平均寿命、男七五・九一歳、女八一・七七歳</p> <p>11・ 12 天皇陛下即位の礼</p> <p>3・ 東京新宿に新都庁舎完成</p> <p>5・ 15 暴力団対策法制定</p> <p>6・ 雲仙普賢岳で火砕流続発</p> <p>11・ 5 宮沢喜一内閣成立</p>

	<p>四 一九九二</p>	<p>大間町二〇九九戸、人口七二五五人</p> <p>4・1 社会法人大間町社会福祉協議会発足</p> <p>6・21 町制五〇周年記念第二七回町民体育大会開催</p> <p>7・15 大間町で第一回町史編纂委員会開催</p> <p>8・26 第三回青森県公民館大会を大間総合開発センターで開催</p> <p>9・2 総合開発センターで大間病院新築落成式</p> <p>10・1 大間中学校新校舎落成し移転</p> <p>10・2 東日本フェリーのジェットフォイルのチャーター便が大間⇄函館間五〇分で航行</p> <p>11・3 大間町制施行五〇周年記念式典。大湊海上自衛隊大湊音楽隊による町制五〇周年記念演奏を大間小学校体育館で行う</p> <p>11・7ゝ8 第三〇回大間町産業祭を町総合開発センターで開催</p> <p>11・18 町制五〇周年記念社会福祉協議会法人化記念第一回大間町社会福祉大会を大間町総合開発センターで行う</p> <p>11・29 奥戸婦人消防クラブ結成式を奥戸農業研修センターで開催</p>	<p>1・7 ブッシュ米大統領来日</p> <p>2・14 東京佐川急便事件発生</p> <p>3・1 暴力団対策法施行</p> <p>公務員の完全週休二日制導入</p> <p>6・15 国連平和維持活動（PKO）協力法成立</p> <p>7・1 山形新幹線開業</p> <p>7・27 青森ベイブリッジ開通（二車線・一九九三メートル）</p> <p>9・12 日本人宇宙飛行士・毛利衛宇宙へ。二〇日帰還</p> <p>10・23 天皇・皇后初めて中国訪問</p>
--	-------------------	--	--

年号	西暦	大間町および下北・青森地方の史実	日本の史実
平成五	一九九三	<p>1・30 大間町役場、完全週休二日制を実施</p> <p>2・21 大間中学校校舎新築落成式挙行</p> <p>3・26 タイムカプセル埋設式</p> <p>9・5 大間病院で遠隔医療システムを実施</p> <p>11・2 緊急通報システム福祉安心電話第一号を設置</p> <p>11・ 大間港根田内西防波堤灯台が新設始動</p> <p>12・5 大間町女性団体連絡協議会発足</p>	<p>1・15 北海道釧路沖で地震（マグニチュード七・八）</p> <p>4・23 天皇・皇后沖繩を訪問</p> <p>5・15 Jリーグ開幕</p> <p>6・9 皇太子殿下と小和田雅子さんの結婚の儀</p> <p>7・12 M七・八の北海道南西沖地震が発生、津波が奥尻島を直撃</p> <p>8・6 細川護熙日本新党代表が新首相に選ばれる</p> <p>12・16 田中角栄元首相死去、七五歳</p> <p>1・29 政治改革四法案が衆参両院で可決成立</p> <p>2・4 初の純国産ロケットH2の打ち上げに成功</p> <p>4・25 衆参両院で羽田孜を新首相に指名</p> <p>4・26 中華航空のエアバス機が名古屋空港で着陸に失敗、炎上</p>
六	一九九四	<p>2・4～6 大阪国際見本市会場で開催された電気のふるさとふれあい産直市に大間町が出席</p> <p>3・22 「本州北海道連絡橋」大間・戸井ルート誘致推進協議会の設立総会を函館市で開催</p> <p>6・26 奥戸中学校校舎新築落成式挙行</p> <p>7・14 豊国丸慰霊祭（五〇回忌）</p> <p>7・20 初のブルーマリンフェスティバル、うみとぴあ41度33分を開催</p>	

<p>八 一九九六</p>	<p>1・4 大間町総合住民情報システム稼働（住民票などの見直しを申し入れ（A B W R計画へ））</p> <p>8・30 電源開発（株）が大間原発A T R実証炉計画</p> <p>4・14 大間町斎場「やすらぎ園」完成、落慶法要</p> <p>4・1 大間消防分署、消防署に昇格</p> <p>3・ 昆布焼酎「大間崎」発売</p>	<p>6・21 円高が急進し、一ドル＝九九円八五銭を記録</p> <p>6・22 製造物責任（P L）法が成立</p> <p>6・27 松本サリン事件発生</p> <p>6・29 村山富市社会党委員長が新首相に選ばれる</p> <p>7・8 日本人女性初の宇宙飛行士・向井千秋宇宙へ。二三日帰還</p> <p>9・4 関西空港完成</p> <p>10・4 北海道東方沖でM七・九の地震</p> <p>10・13 大江健三郎にノーベル文学賞</p> <p>12・28 三陸沖でM七・五の地震</p> <p>1・17 阪神大震災</p> <p>3・30 地下鉄サリン事件</p> <p>4・9 第一三回統一地方選挙</p>
<p>七 一九九五</p>	<p>1・ ハイビジョン映像作品「海鳴りの町」完成</p> <p>2・23 大間町漁業活性化センター完成</p>	<p>11・16 「本州北海道連絡橋」シンポジウムを大間中学校体育館で開催</p>

大間町年表

	年号
	西暦
	大間町および下北・青森地方の史実 どコンピュータにより交付
	日本の史実

●主要参考文献

〈第一章〉

- 平沢半四郎『日本地方地誌』昭和二十九年
北村信・鈴木養身・多田元彦「青森県地質について」
昭和三十四年
青森県庁編『青森県の地下資源』昭和二十九年
森治『下北半島の植物』
佐井村編『佐井村誌』(上巻) 昭和四十六年
むつ市編『むつ市史』(自然編) 第一法規出版(株) 平成元年
平井正和『下北の自然』昭和五十一年
奈良正義『青森県の地史』青森大学出版 昭和五十七年
下北文化誌編集委員会編『下北文化誌』青森県高等学校
PTA連合会 平成二年
青森県教育委員会編『青森県地誌』大正九年
高橋正雄『新青森県地誌』北方新社 昭和五十四年
〈第二章〉
中島全二「下北半島新石器文化の編年的研究」考古学雑
誌三十六卷四号 昭和二十五年
江坂輝彌・渡辺誠・高山純『大間町ドウマンチャ貝塚』
平凡社 昭和四十二年
橘善光「下北半島の弥生中期後半以降の土器」(『北海道考
古学』八集) 昭和四十七年
橘善光「大間崎烏間遺跡の土器について」(『北海道考古学』
九集) 昭和四十八年
福士長俊『東北太平記』(北部御陣日記) 青森県文化財保
護協会 昭和三十二年
青森県教育委員会編『青森県の中世城館』青森県教育委
員会 昭和五十八年
橘善光「アイヌ在地における下北の中世」(『うそり』十三
号) 昭和五十一年
菅江真澄著、内田・宮本編訳『菅江真澄遊覧記』平凡社
昭和四十七年
笹沢魯羊『下北半島史』下北郷土会 昭和三十七年
笹沢魯羊『下北地方誌』大正十年
笹沢魯羊『字曾利百話』下北郷土会 昭和三十六年
下北の歴史と文化を語る会編『下北半島の歴史と民俗』
伝統と現代社 昭和五十三年
森勇男『下北半島の歴史と芸能』

むつ市編『むつ市史』（原始・古代・中世編） 第一法規出版

版（株） 平成六年

佐井村編『佐井村誌』（上・下巻）

鈴木克彦『日本の古代遺跡』29『青森』 昭和六十一年

青森県郷土館編『下北半島』 平成三年

『東奥日報』臨時特集『三内丸山遺跡』 平成六年

『アサヒグラフ』臨時増刊『三内丸山遺跡』 朝日新聞社

平成六年

鳴海健太郎『下北の海運と文化』北方新社 昭和五十二年

葛西富夫『北の動哭』 昭和五十五年

〈第三・四章〉

青森県『青森県治一覽』 明治十三年

青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌』 国書刊行会 昭和四十五年

和四十五年

『大奥地誌』

笹沢魯羊『下北半島史』 昭和二十七年

『佐井村誌』（上巻）

『青森八十年史』

「大間町水産振興計画」

笹沢魯羊『下北郡地方誌』 大正十五年

むつ地区農業改良普及事業協会『冷害の記録』 昭和五十

六年

むつ市編『むつ市史』（近代編） 第一法規出版（株） 昭和六十一年

十一年

『えとのす』（第七号） 新日本教育図書（株） 昭和五十一年

『広報おおま』

大間町『町勢要覧』 大間

大間町『第三次大間町総合計画書』 平成元年

「下北郡統計書」

東奥日報事業局『青森県政治史』(1)明治前期 昭和四十年

東奥日報事業局『青森県政治史』(2)明治後期 昭和四十七

年

東奥日報事業局『青森県政治史』(3)大正・昭和初期 昭和

五十五年

〈第五章〉

『青森県漁具誌』

大間漁業協同組合『汐風』（創立三十周年記念誌）

大間町商工会『商工会二十年の歩み』『商工会三十年の歩み』

『大奥村史』

大奥村『大間郷土史』 昭和十一年

『下北新報』

〈第六・七・一〇・一一・一二章〉

「南部領北郡浜方村村道筋書付」

「南部盛岡藩領内絵図」

松浦武四郎著・吉岡編『東奥沿海日誌』時事通信社 昭和

和四十四年

『下北新報』

『東奥日報』

『大奥村誌』

『青森県史』（全八巻）大正十五年

「大間町文化財審議委員会活動報告書」

〈第八・九章〉

大間小学校編『自力更生の原理』大間教育 昭和十年

東奥日報社編『青森県総覧』昭和三年

大間小学校編『大間小学校新（真）教育の系譜』昭和五

十五年

奥戸小学校編『奥戸小学校創立百周年記念誌』昭和五十

七年

材木分校編『材木小学校閉校式のしおり』昭和四十五年

大間町教育委員会編『大間町の教育』各年度版

大間町教育委員会編『岬の光』

大間町編 第一次、第三次「大間町総合計画書」

青森県生活福祉部「社会福祉関係八法改正の概要」

青森県生活福祉部「身体障害者福祉対策の概要」

葛西富夫『下北教育史考』昭和三十八年

『青森県教育』全六巻 昭和四十九年

〈総合、年表作成をも含めて〉

九学会連合下北調査委員会『下北』昭和四十二年

東奥日報社『青森県百科辞典』昭和五十六年

『大間町沿革史年表』昭和五十七年

『歴史手帳』12「特集下北半島の歴史と民俗」名著出版

昭和五十七年

『日本歴史地名大系』2「青森県」平凡社 昭和五十七年

盛田稔・長谷川成一編『角川日本地名大辞典』「青森県」

昭和六十年

盛田稔・長谷川成一編『図説青森県の歴史』平成三年

大間武内家古文書

『日本全史』講談社 平成三年

『読める年表』自由国民社 昭和五十七年

あとがき

近年の歴史ブームで、下北郡内でも市史・町史・村史の作成がなされていますが、大間町で取り組みが遅れたのは、町史に必要な歴史資料が数多くなかったことがその理由といわれてきました。それでも『大奥地誌』『大奥村誌』が大正初期に、『大間郷土誌』『奥戸郷土診断』が昭和十一年に作られています。その後、半世紀余りを過ぎて、町史づくりの話がありませんでした。しかし、このたびの『大間町史』の発刊までの経緯については、教育長の発刊の挨拶にありますので省略しますが、その後「大間町史編纂委員会」が発足し、

(一) より多くの町民に親しまれ、未永く活用され得る町史の刊行に努めること

(二) 火災などにより急速に散逸しつつある歴史資料の収集を急務とし、これら歴史資料を政治・経済・文化などに体系づけて網羅した町史とすること

(三) 町史編纂事業で収集した貴重な資料はコピーなどにより整理し、恒久的に保存し、今後の郷土学習などの資料として役立てること

(四) 歴史資料の収集に当たっては、町民への啓蒙をしながら協力を求め、移り変わる実態に即して、できるだけ図版・写真などをつけて町民にわかりやすいものにする

(五) 公正な史観に基づいて、あくまで大間町の歴史を中心にとらえ、広く一般町民の目に触れるものとし、中学生でも理解でき、利用できるものにする

との方針のもとに、この五年間、編纂の仕事を重ねてきましたが、思いのほか歴史資料の収集に手間取り、た

だ日数のみが経過した感じがいたします。

戦前から戦後にかけての農林・水産・郵政・役場関係の記録が完全でなく、今後には研究の余地を残しました。このことは、町史をつくる体制が整わないうちに、大間・奥戸が度重なる大火に遭ったことや、敗戦という大きな試練に直面し混乱を来して、保存すべき書類などが散逸したことに起因するとも考えられますが、ともかく今後に課題が残りしました。このことは早い機会に解決しなければならぬと痛感しています。

記述につきましては、個人のプライバシーに関する事項は避けよう、はつきりしないことは載せない、「郷土の人物」については、現に生存している人は取り上げない、など申し合わせをして臨みました。

このたびの『大間町史』の執筆に当たられました澤田一矢、若山三郎、鳥居哲男、土子民夫の各専門委員の先方には乏しい資料を補いながら、しかもわかりやすい通史をとの執筆に心がけていただきました。そのご労苦に対しまして衷心より敬意と感謝を申し上げます。また、いろいろと発刊までの心配りをしていただきました第一法規出版株式会社の小出博彦、小河原武久の両氏にも厚くお礼を申し上げます。

さらに、このたびの『大間町史』の発刊に当たり、心よく資料の提供をし、協力していただき、その上、ご助言ご鞭撻をして下さいました方々に対しまして、深甚なる感謝の意を表します。

多くの方々のお力添えによりまして、大間町民が長い間待ち望んでおりました『大間町史』第一巻の発刊を迎えることができました。みんなで祝福したいと思えます。この通史発刊を契機に、今後は各分野、各部門ごとに調査研究が進められ、より良い大間町史への改訂がなされますよう切望いたします。

最後になりましたが、記述内容につきましてはできる限り正確なものと編纂に当たりましたが、特に割愛を余儀なくした事項もあり、記述不足や間違っている点もあるかと存じます。皆さんからのご指摘、ご指導をいた

なければ幸いです。この町史が多くの方々に愛され、活用していただいて、大間町の解明と今後の発展への指針となれば、これ以上の喜びはありません。

大間町教育委員会教育委員長 熊谷 正之

大間町史編纂委員会委員

〈取組当初〉

委員長 金澤 弘康 町長
 副委員長 浅見 恒吉 助役
 副委員長 米澤 明男 教育長
 委員 熊谷 正之 町教育委員会教育委員長・
 大間地区

委員 宮野 次郎 町教育委員会教育委員・奥
 戸地区

委員 佐々木 多喜郎 町立幼稚園長・奥戸地区
 委員 米澤 菊市 商業・大間地区
 委員 石澤 一昭 僧侶・大間地区
 委員 足澤 貞成 京都大学霊長類研究所研究
 員・大間地区

委員 竹内 昭吾 団体職員・大間地区
 委員 興村 栄蔵 郵便局長・奥戸地区
 委員 松本 秀雄 漁業・材木地区

〈刊行時〉

委員長 浅見 恒吉 町長
 副委員長 米澤 明男 教育長
 委員 紀国 和彦 町収入役
 委員 熊谷 正之 町教育委員会教育委員長・
 大間地区

委員 宮野 次郎 町教育委員会教育委員・奥
 戸地区

委員 佐々木 多喜郎 町立幼稚園長・奥戸地区
 委員 米澤 菊市 商業・大間地区
 委員 石澤 一昭 僧侶・大間地区
 委員 足澤 貞成 京都大学霊長類研究所研究
 員・大間地区

委員 竹内 昭吾 無職・大間地区
 委員 興村 栄蔵 郵便局長・奥戸地区
 委員 松本 秀雄 漁業・材木地区

委員 佐々木 清 喜 漁業・材木地区
 委員 益城 一 町参事
 委員 木村 和 弘 町総務課長
 委員 蛭子 研 三 町企画調整課長
 委員 番匠 憲 隆 町議会事務局長
 委員 和田 博 町民生課長
 委員 近江 悦 郎 町農林畜産課長
 委員 紀国 和 彦 町水産課長
 委員 森野 香 司 町商工観光課長
 委員 傳法 武 朗 町農業委員会事務局長
 委員 南 英 克 町税務課長
 委員 伊藤 弘 文 町教育委員会総務課長
 委員 古川 一 男 町教育委員会社会教育課長

事務局（教育委員会社会教育課）

古川 一 男 町教育委員会社会教育課長
 古畑 龍 泉 町教育委員会社会教育課主
 査

委員 佐々木 清 喜 漁業・材木地区
 委員 益城 一 町原子力発電所対策室参事
 委員 木村 和 弘 町総務課長
 委員 蛭子 研 三 町保健課長
 委員 番匠 憲 隆 町議会事務局長
 委員 和田 博 町福祉課長
 委員 近江 悦 郎 町農林畜産課長
 委員 森野 香 司 町原子力発電所対策室長
 委員 傳法 武 朗 町下手浜保育所長
 委員 南 英 克 町税務課長
 委員 金澤 満 春 町企画調整課長
 委員 吉田 安 男 町水産課長
 委員 能戸 正 吾 町商工観光課長

事務局（教育委員会社会教育課）

古川 一 男 町教育委員会社会教育課長
 大場 洋 悦 町教育委員会総務課長
 松原 俊 逸 町教育委員会社会教育課主
 査

主な協力者（敬称略・順不同）

〈大間町内〉

伊藤 幸子

奥戸郵便局

武内 昭夫

山崎 千里

青森県立大間高等学校

木村 重忠

佐藤 徳一

大間警察署

田中 猛

大間稻荷神社

大間営林署

野崎 信行

奥戸春日神社

東北電力(株)大間サービスセンター

金沢 昭一

材木稻荷神社

電源開発(株)大間原子力総合立地事務所

高畑 正夫

阿弥陀寺

〈町外〉

南 ミヤ

福蔵寺

(青森市) 東奥日報社・青森県立図書館

松原 忠夫

法香寺

(弘前市) 弘前市役所

小鷹 勝幸

円融寺

(むつ市) 日時紀朗・鳴海健太郎・青森地方気象台むつ測候所・むつ航路標識事務所・むつ市教育委員会

長根 正弥

崇徳寺

(大畑町) 大安寺・大畑町教育委員会

世森 五郎

信願寺

(川内町) 川内町教育委員会

興村 忠一郎

長弘寺

(佐井村) 法性寺・佐井村教育委員会

笹谷 貫三

大間漁業協同組合

(風間浦村) 風間浦村教育委員会

清水 雄一

奥戸漁業協同組合

(東通村) 東通村役場・東通村教育委員会

御厩敷友吉

大間町商工会

(脇野沢村) 脇野沢村教育委員会

南 昌夫

大間郵便局

大間町史

平成九年三月三十一日 発行

編集 大間町史編纂委員会

発行 大間町

〒039-46 青森県下北郡大間町大字大間一〇四
電話(〇一七五)三七一二二一

制作 第一法規出版株式会社

〒107 東京都港区南青山二一―一―一七
電話(〇三)三四〇四―三二五―

東北支社

〒980 仙台市青葉区上杉一―六―一
電話(〇二二)二三三―八一四六

題字／金澤弘康(第十七代大間町長)

